

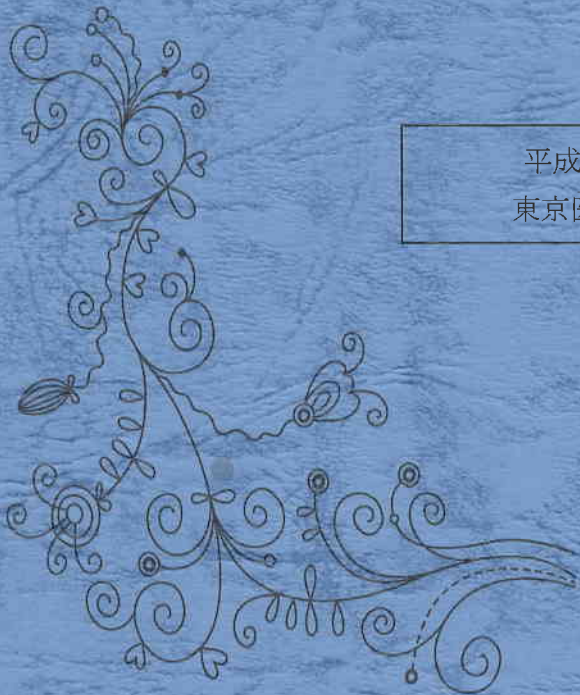


Wheel of Life

～これから考えたいキャリア選択～

次世代育成支援 若手研究者キャリアデザイン事業
平成 25 年度活動報告書

平成 25 年 11 月
東京医科歯科大学



若手研究者キャリアデザイン事業について

本学において、次世代育成支援事業の取り組みとして実施している「若手研究者キャリアデザイン事業」も平成 25 年度で 4 回目の実施を迎えます。本事業は、本学の女子大学院生が、今後の自分のキャリア形成において必要なプロジェクトを自主的に企画運営することを目的に行っております。

今年度のメンバーは、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所および保健衛生学研究科に在籍し、学業・研究・臨床を行っている女子大学院生 12 名です。そのうち、留学生を 4 名（中国、ネパール、バングラデシュ、新疆ウイグル自治区）迎えて活動を行いました。

企画内容としては、家庭と仕事との両立に関して既婚者と未婚者での意識の違いや、必要な支援体制の違いを明らかにする「Family and Career—家庭とキャリアー」グループ、大学院を修了した後にどのようなキャリアパスがあるのかを知る「大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー」グループに分かれ、アンケート調査やインタビュー事業の活動を行いました。

本学の大学院生においては、卒業後に教育・研究機関でアカデミックの分野に進む道や、企業での研究職等に進む道など、その選択肢は多様となってきています。それと同時に、性別や年齢、経験などの多様性（ダイバーシティ）を活かした働き方や生き方も選べるようになってきました。更に出産や育児、介護などのライフイベントを経ながら、研究・学業との両立ができる環境の整備も進んできており、それだけ自分が選べる選択肢の幅は広がってきているといえます。そのため大学院生を含む若手研究者の方々は、仕事（研究）生活と家庭生活を含んだライフキャリアにおいて、これから何を選択し、どのような道を目指したいのかを考え、ぜひ「大志を抱いて」歩んで行って頂きたいと思います。

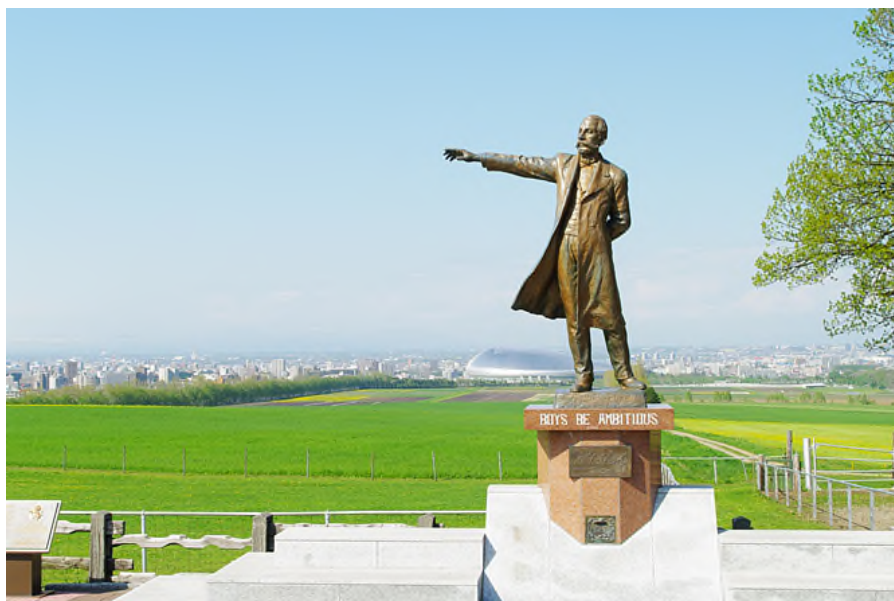
この報告書は、本事業の 7 月から 11 月までの活動記録集でもあり、本学への今後の次世代育成に向けての資料集でもあります。皆様の今後のキャリアを歩んで行く上での参考にして頂けたら幸いです。

平成 25 年 11 月

学生・女性支援センター 女性支援部

若手研究者キャリアデザイン事業 参加メンバー一同

“Girls, Be Ambitious!”



目次

若手研究者キャリアデザイン事業について.....	i
次世代育成支援事業～オープンキャンパスでの活動紹介～	1
第1章 Family and Career—家庭とキャリア—	
企画の趣旨	5
本事業に参加したきっかけ（杉山・金崎・主原・Shrestha）	6
本事業に参加したきっかけ（鈴木・Habibulla・Jamal）	7
グループの活動スケジュール・アンケート調査の特徴など	8
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（日本語、基本属性）	9
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（日本語、未婚）	10
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（日本語、既婚）	12
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（英語、基本属性）	14
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（英語、未婚）	15
家庭とキャリアの両立に関するアンケート質問票（英語、既婚）	17
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Face sheet）	19
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q1 未婚・既婚）	20
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q2 未婚・既婚）	21
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q3 未婚・既婚）	22
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q4・5 未婚）	23
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q6 未婚）	24
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q4・5 既婚）	25
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q7 既婚）	26
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q8 未婚・9 既婚）	27
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q9 未婚・10 既婚）	28
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q11 未婚・12 既婚）	29
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q9 未婚・10 既婚の自由回答） ..	30
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q10 未婚・11 既婚の自由回答）	34
家庭とキャリアの両立に関するアンケート調査結果（Q12 未婚・13 既婚の自由回答）	38
Discussion/Recommendations（日本語・英語）	42
研究者夫婦へインタビュー.....	44
A Perspective of a Scientist from Mongolia.....	48
Balancing Study and Family Life in Japan	51
第2章 大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー	
企画の趣旨	55
本事業に参加したきっかけ（李娜・鈴木・小野・保科・八田）	56
グループの活動スケジュール.....	57
インタビューの目次	59

修士課程卒業： Tさん	60
修士課程卒業： 飯村 祥子さん	64
修士課程卒業： Iさん	68
博士課程卒業： 伊藤 享子さん	70
博士課程卒業： 大島 志織さん	74
博士課程卒業： 松山 科子さん	77
博士課程卒業： Hさん	81
博士課程卒業： 李 明順さん	84
インタビューを終えて	88
若手研究者キャリアデザイン事業に参加して	89

次世代育成支援事業 ～オープンキャンパスでの活動紹介～

女性支援部では、次世代育成支援事業の一環として、本学のオープンキャンパスでの参加・展示を行っています。参加者の方々に当部の活動内容を直接ご紹介することで、これから本学に入学を検討している次世代の方々に、女性支援やキャリア支援の必要性を知って頂く良い機会となっています。本年度のオープンキャンパスは8月1日と2日の両日にわたって開催され、高校生や学生、友人同士や親子で参加される方などを合わせて、2日間で5000人以上の方が来場されました。

当日は、女性支援部の活動に関するポスターの展示や出版物の配布に加え、参加者の方々に将来の夢を書いて頂き、“キャリアツリーのポスター”に掲示するという毎年恒例の企画を行いました。毎年、参加者の方々からは多くの将来の夢を寄せて頂いており、今年もオープンキャンパスが終わる頃には、ポスターに貼るスペースがないほどたくさんの夢のメッセージが掲示されました。

若手研究者キャリアデザイン事業のメンバーも、各グループの企画ポスターを作成し、展示ブースの前で説明を行い、本学に入学を検討している学生の方々への身近なロールモデルとして、グループの活動内容や女性支援の必要性について積極的な周知を行うことができました。当部の展示ブースに立ち寄られた学生の方々からは、研究生活についての質問などが寄せられ、女子大学院生とも積極的な交流を図ることができました。

オープンキャンパスでの展示の様子



Group 1

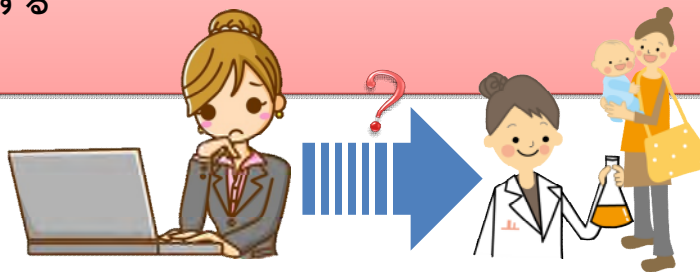
“Balancing Family and Career”

本企画の目的

女性にとっての問題点・・・**出産や育児**によるキャリアの中断

家庭とキャリアの両立に関する課題と解決策を考察

→まだ家庭を持っていない研究者や学生が、家庭とキャリアの両立について具体的に知る機会を作り、今後両立を目指す上で支援となりうるものを提供する



最近になって、友人から結婚や出産の報告を多く受けるようになり、急に現実味を帯びてきた女性としての一イベントですが、ニュースや新聞では女性の社会進出と共に様々な問題が取り上げられています。そこで、結婚や出産に対しての認識の違いをバックグラウンドの異なる人達に調査を行い、意識の差を知ることで、今後結婚や出産といった機会を経験する(希望)際、参考にしたいと思い参加しました。**歯科心身医学分野M1 S.S**

To maintain a family life and career development at the same time is not so easy for a woman. Everyone wants to build up a good career along with a good family life. But the question is that, how easy it is to do both things together side by side! So, we discussed about this issue in our meeting and tried to find out probable easiest ways by which we can make the life simple, comfortable and the happiest as well. **国際環境寄生虫病学D1 Ripa Jamal**

博士課程へ進学し将来は研究者として生きていくことを考えています。研究者と家庭生活を自分が両立していく姿が想像できず不安に思っていました。この企画に参加することで家庭とキャリアの両立に対しての理想的なライフプランニングについて考えていければと思い参加を決めました。メンバーたちとお互い刺激しあひながら頑張っていきたいです。

分子神経科学分野M1 杉山 香織

I am 3rd year PhD student of TMDU. Present I am living with my husband and two-year-old daughter. Being a mother I think it is not so easy both study and take care family and child for working mothers. It is a good opportunity for me to come into contact with some working mothers and share suggestion with them. I hope and believed the “balancing family and career” project can help my present and future career development.

整形外科科学分野D3 ソリピア エビブラ

この企画に参加したきっかけ

I BELIEVE WORKING IN THIS PROGRAM NOT ONLY GIVES AN IDEA OF DOING RESEARCH BUT ALSO HELPS US FINDING OUT THE CONCERNS OF YOUNGER GENERATIONS. THEIR OVERVIEW ABOUT BALANCING FAMILY AND CAREER ,OPINIONS ABOUT THEIR FUTURE PLANNING OF MAKING FAMILY LIFE COORDINATING WITH THEIR WORK SIMULTANEOUSLY. IT WILL PLAY AN IMPORTANT ROLE TO ACT AS A GUIDELINE FOR MANY LIKE US TO LEAD A BETTER LIFE IN FUTURE.

スポーツ医学分野D1 Abhishekhi Shrestha

昨年歯学部を卒業し、歯科医師免許を取得しました。資格をいかしてキャリアを積み重ねつつ、いずれ結婚し家庭を持ちたいと考えています。将来の漠然とした理想はありますが、家庭とキャリアの両立に実際どういった苦労があるのか、知らないことが多くあります。この事業に参加し、自分の将来に具体的なイメージを描ければと思っています。

顎顔面補綴学分野D3 金崎 彩子

私は他大学院で認定遺伝カウンセラーという資格を取得し、医科歯科の大学院で学び始めて2年目になります。周産期遺伝カウンセリングを研究する認定遺伝カウンセラーとしてだけでなく、臨床家・研究者などを目指す他の女性大学院生が、キャリア構築中の妊娠・出産をどのように考えているか、また諸先輩方がどのような経験をされたか知りたいたいと思い、本企画への参加を決めました。

先進倫理医学分野D3 主原 翠

今後の予定

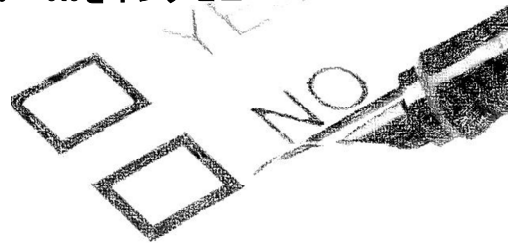
➤ 全体に対して、、、

家庭とキャリアに対する意識をアンケートで調査する

ex) 「家庭生活に割く時間とキャリアに割く時間の割合の理想と現実」
 「配偶者にどれくらい子育てに協力して欲しいか、また実際はどれくらい参加しているか」
 →家庭を持っている人と、そうでない人たちが家庭とキャリアに関する考え方に差があるのではないかな？

➤ 家庭生活とキャリアを両立している人に対して、、、

どんな苦労があったか、どんな支援が必要か…etcをインタビューする



「大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー」グループのポスター

「大学院修了後の女性のキャリアデザイン」 についてのインタビュー企画(案)

調査目的
女子大学院生が、卒業後にどのようなキャリアを歩んでいるのかを調査すること

調査方法
大学院を卒業後、現在働いている女性にインタビューを実施する。

予想される成果
 ■卒業後のさまざまなキャリアパスを知ることができる。
 ■修士、博士課程をそれぞれ修了した方々と直接対話することにより、個別のキャリアデザインの取り組み方や考え方を知り、身近な具体例として参考にすることができる。
 ■ネットワークを構築することができる。

～メンバー～

- 李 娜(代表)
医歯学総合研究科
包括病理学分野D4
- 鈴木陽子(副代表)
医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野 D1
- 小野恵子
医歯学総合研究科
精神行動医科学分野 M1
- 八田愛理奈
難治疾患研究所
分子薬理学分野 M1
- 保科ゆい子
保健衛生学研究科
看護システムマネジメント学分野M1

「大学院修了後の女性のキャリアデザイン」 についてのインタビュー企画(案)

事業に参加したきっかけ

修士課程1年で、自分の進路を考えるに当たり、同じようなバックグラウンドの人とコミュニケーションを取り、意見を交換したくて参加しました！人脈や自分の視野を広げたいと思います。

八田愛理奈

研究者を目指すキャリアパスについて、いろいろな視点から見てみたいと思い本事業に参加しました。インタビューを通して考え方を学び、今後の選択をしたいと思っています。

小野恵子

就職活動の時から、医学部大学院の先輩、特に留学生の先輩が少ないことに気がきました。この事業を通してネットワークを開き、先輩たちのキャリアデザインを参考にしたいです。

李娜

看護の分野においては、大学院への進学はまだまだ一般的ではなく、卒後のキャリアの選択肢がどの様なものか、本事業を通じて考えたいと思います。また今後大学院進学を考える学部卒業生の方へ、何か有意義なメッセージを送りたいと考えています。

保科ゆい子

大学院に進学する際に、先生に院を修了した後のキャリアの選択肢として企業もあると言われ、企業の研究職について知りたいたいと思いました。キャリアデザインについて話を聞いて考えてみたいと思い、本事業に参加しました。

鈴木陽子

「大学院修了後の女性のキャリアデザイン」 についてのインタビュー企画(案)

～具体的な方法～

「大学院の卒業生にインタビューすることで、彼女たちのキャリアパス、現在の仕事のきっかけ、将来へのデザイン、仕事を行う上での困難への克服法等を調査する」

- ① 各メンバーは、自分の興味のある対象やテーマをまとめる。これらを参考にしてインタビューの雛形を作り、メンバー間で共有する。
- ② 卒業生や知り合い等、インタビューにご協力頂けそうな方を探し、インタビューが可能であるかを確認する。
- ③ 各グループメンバーは2名以上のインタビューを担当し、趣意書の承諾を得られた方からインタビューの計画を立て、インタビューを実施する。
- ④ インタビュー終了後、原稿を作成する。原稿内容を確認し、同意を得られた後、事業報告書に掲載する。
- ⑤ インタビューを行い、興味深い内容が聞けた場合は、インタビュー相手を講師として招き、セミナー形式へ発展する可能性も検討する。



【企画メンバー】

杉山 香織 (リーダー)	(医歯学総合研究科・分子神経科学分野 修士課程1年)
金崎 彩子 (副リーダー)	(医歯学総合研究科・顎顔面補綴学野 博士課程1年)
主原 翠 (副リーダー)	(医歯学総合研究科・先進倫理医科学分野 博士課程2年)
鈴木 スピカ	(医歯学総合研究科・歯科心身医学分野 修士課程1年)
Abhishekhi Shrestha	(医歯学総合研究科・スポーツ医歯学分野 博士課程1年)
Zulpiye Habibulla	(医歯学総合研究科・整形外科学分野 博士課程3年)
Ripa Jamal	(医歯学総合研究科・国際環境寄生虫病学分野 博士課程1年)

【目的】

女性にとって、出産や育児によるキャリアの中断は大きな問題の1つである。しかし、実際に家庭を持つまではどういった苦労があるのか、どのような支援が必要なのかを具体的に感じる機会は少ない。そこで、家庭を持つ研究者や学生と、家庭を持っていない研究者や学生を対象にアンケート調査とインタビューを実施し、双方の意識の差を比較しながら、家庭とキャリアとの両立に関する課題とその解決策について考察することを主な目的とする。

【方法】

- ① アンケート調査：学内の男女の学生や教職員、留学生を対象に実施する。紙媒体での調査票を該当者に配布し、各メンバーが20件程度を回収することを目標としているため、140件程度の回答結果が得られると考えられる。
- ② インタビュー：家庭を持っている学内外の男女の研究者や学生、留学生に実施する。インタビュー相手には、実名・所属先・顔写真の報告書掲載及びWeb掲載が可能なかを予め確認しておく。海外にいる知人等にもメールでインタビューすることも検討している。

【タイムスケジュール】

8月下旬まで	企画書の完成、企画準備、アンケート設問の作成、インタビューの候補者探し
8月下旬～9月下旬	アンケートの実施および集計、インタビューの実施
9月下旬～10月中旬	アンケートの集計結果から考察を行い、インタビュー内容からも考察を行う
10月中旬～11月	事業報告書原稿の作成・編集、最終校正作業

【予想される成果】

本企画により、研究者や学生において、家庭を持っている者・持っていない者との間に、家庭とキャリアとの両立についてどのような認識の違いがあるかを知ることができると考えられる。家庭を持つ研究者や学生の実際の苦労や課題、両立方法を具体的に知ることで、これから両立を目指す学生や研究者が将来設計を考える手助けとなり、支援となりうるものを提供することができると考えられる。

また、家庭とキャリアとの両立における課題や解決策を提示することで、必要な支援策を女性だけではなく、多くの大学関係者にも提供するきっかけとなることが期待される。

Why did I participate in this project? / 本事業に参加したきっかけ



杉山 香織

博士課程へ進学し将来は研究者として生きていくことを考えています。研究者と家庭生活を自分が両立していく姿が想像できず不安に思っていました。この企画に参加することで家庭とキャリアの両立に対しての理想的なライフプランニングについて考えていければと思い参加を決めました。メンバーたちとお互い刺激しあいながら頑張っていきたいです。

金崎 彩子

昨年歯学部を卒業し、歯科医師免許を取得しました。資格をいかしてキャリアを積み重ねつつ、いずれ結婚し家庭を持ちたいと考えています。将来の漠然とした理想はありますが、家庭とキャリアの両立に実際どういった苦労があるのか、知らないことが多くあります。この事業に参加し、自分の将来に具体的なイメージを描ければと思っています。

主原 翠

私は他大学院で認定遺伝カウンセラーという資格を取得し、東京医科歯科大学の大学院で学び始めて2年目になります。周産期遺伝カウンセリングを研究する認定遺伝カウンセラーとしてだけでなく、臨床家・研究者などを目指す他の女子大学院生が、キャリア構築中の妊娠・出産をどのように考えているか、また諸先輩方がどのような経験をされたか知りたいと思い、本企画への参加を決めました。

Abhishekhi Shrestha

I BELIEVE WORKING IN THIS PROGRAM NOT ONLY GIVES AN IDEA OF DOING RESEARCH BUT ALSO HELPS US FINDING OUT THE CONCERNS OF YOUNGER GENERATIONS. THEIR OVERVIEW ABOUT BALANCING FAMILY AND CAREER, OPINIONS ABOUT THEIR FUTURE PLANNING OF MAKING FAMILY LIFE COORDINATING WITH THEIR WORK SIMULTANEOUSLY. IT WILL PLAY AN IMPORTANT ROLE TO ACT AS A GUIDELINE FOR MANY LIKE US TO LEAD A BETTER LIFE IN FUTURE.

鈴木 スピカ

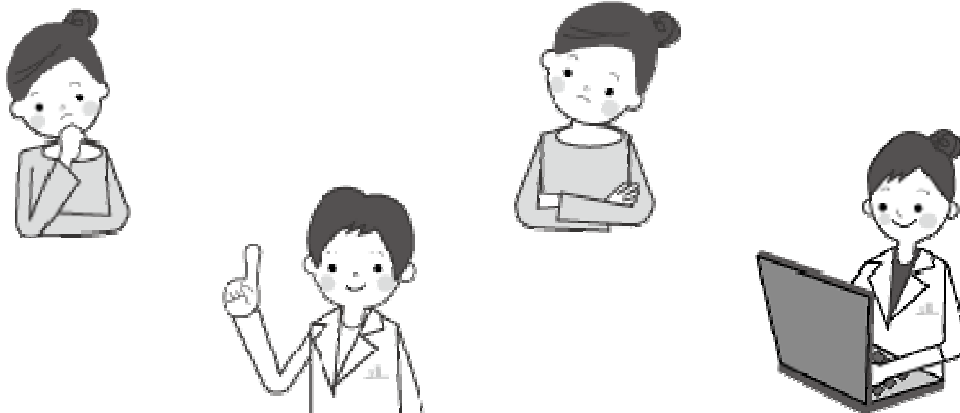
最近になって、友人から結婚や出産の報告を多く受けるようになり、急に現実味を帯びてきた女性として的一大イベントですが、ニュースや新聞では女性の社会進出と共に様々な問題が取り上げられています。そこで、結婚や出産に対する認識の違いをバックグラウンドの異なる人達に調査を行い、意識の差を知ること、今後結婚や出産といった機会を経験する(希望) 際、参考にしたいと思い参加しました。

Zulpiye Habibulla

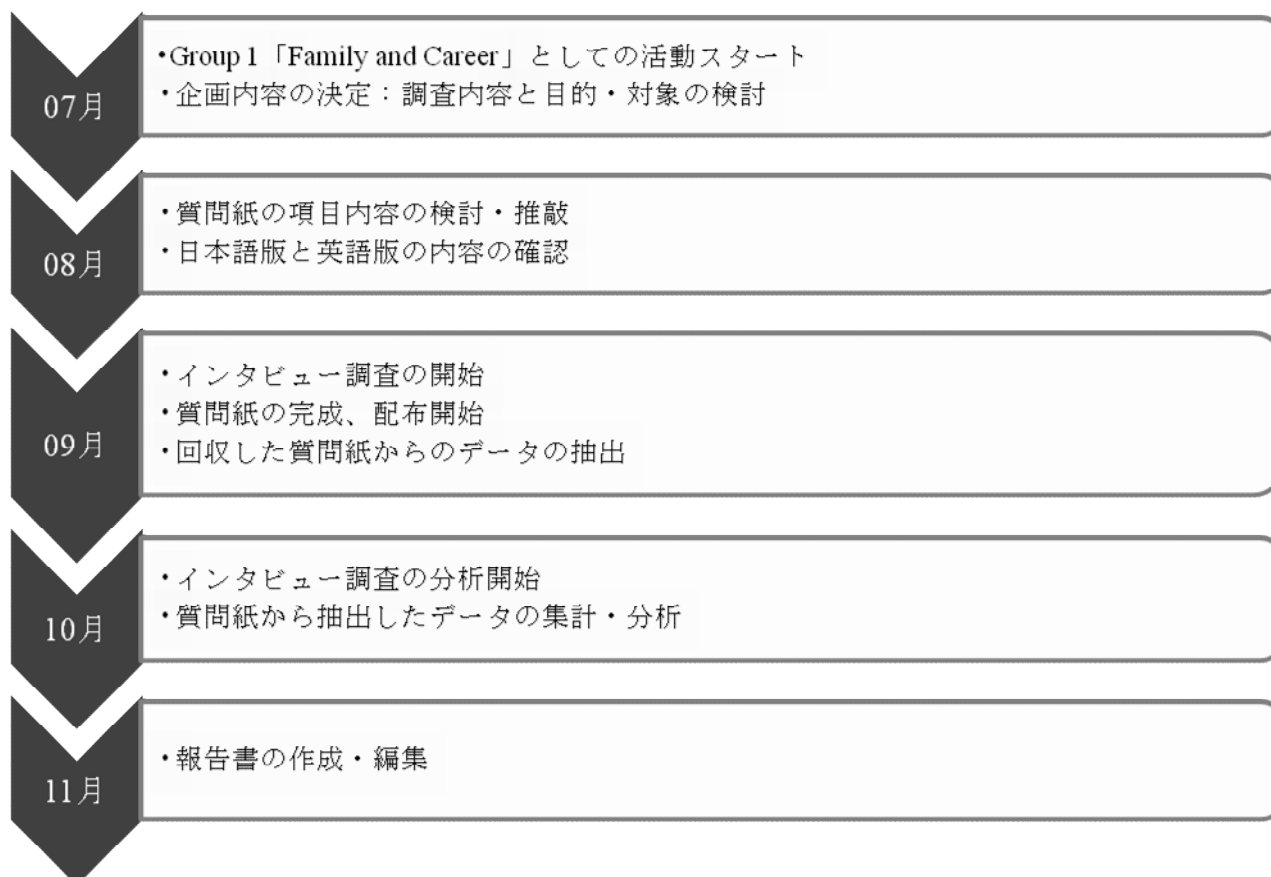
I am 3rd year PhD student of TMDU. Presently I live with my husband and two-year-old daughter. Being a mother I think it is not so easy both studying and taking care of family and child for working mothers. It is a good opportunity for me to come into contact with some working mothers and share suggestion with them. I hope and believe the “balancing family and career” project can help my present and future career development.

Ripa Jamal

To maintain a family life and career development at the same time is not so easy for a woman. Everyone wants to build up a good career along with a good family life. But the question is that, how easy it is to do both things together side by side! So, we discussed about this issue in our meeting and tried to find out probable easiest ways by which we can make the life simple, comfortable and the happiest as well. By the help of open campus discussion, we shared each other's opinion and we tried to make a good solution for better life. As a woman, we have lots of responsibilities to our families, society and nation as well. To improve the society, we always need an educated mother in every house! The future of a nation depends on the mother of a child. So, education, career and family life, all together are so important all the time. We cannot think these three things separately anytime. We should take care about these things sincerely.



グループの活動スケジュール



本アンケート調査の特徴

昨年度のRA事業で実施された「本学における仕事と家庭の両立に関する調査」を参考に、日本語と英語で質問紙を作成した。

昨年との大きな違いは、1) 学内の学生や研究者、教職員、留学生のうち、家庭を持っている／持っていない者の双方を男女問わず対象に含むこと、2) 自由記載項目を複数設けたことの2点である。1) については、より多くの幅広い意見を収集するためであり、2) については、双方の認識や希望を自由記述により詳細に明らかにすることで、家庭とキャリアの両立に関する課題とその解決策について、より具体的に考察することを可能にするためである。

アンケート作成に至るまでの経過・実施方法

- ・ 女性支援部の女性支援専門委員会において、設問内容及び実施の承認を得た後、質問紙の配布によりアンケート調査を実施した。
- ・ 配布方法については、学内のメールボックス経由で各部局・研究室へ送付し、さらに参加メンバーの知人等を通じて質問紙を配布し、一定期間内でアンケートを実施した。教養部にもアンケート調査票を持参し、学部生に配布を行った。また、女性支援部主催のキャリアセミナーにおいても配布した。
- ・ 日本語版と英語版の質問紙とフェイスシート、案内文を作成し、各設問の回答には選択項目を設けた。
- ・ 全体的な回答率を上げるため、予定期日より回答期限を延長して実施した。

※次ページ以降の質問紙および調査結果については、日本語と英語の両方で適宜記載を行う。

家庭とキャリアの両立に関するアンケート

女性支援部では、「若手研究者キャリアデザイン事業」として、女子大学院生が今後のキャリア形成に必要な事業を自主的に企画するプロジェクトを行っています。企画の一つとして、仕事と家庭への両立に対する意識を調査し、今後の将来設計への手掛かりとするとともに、学内での両立への支援策につなげて行きたいと考えています。

そこでこのたび、学内の男女の学生、職員、留学生の方々を対象として家庭とキャリアの両立について意識調査を行いたいと存じます。アンケートにてご意見をお聞かせ頂きたく、ご協力お願いいたします。

回答内容は厳重に管理し、第三者や外部に提供することはありません。また、ご回答結果から個人情報特定されることはありません。

以下の項目について、当てはまるものに○をつけてください。

年齢	: 1) 10代	2) 20代	3) 30代	4) 40代	5) 50代	6) 60代
性別	: 1) 男性	2) 女性				
国籍	: 1) 日本	2) その他				
職業	: 1) 学部生	2) 大学院生	3) 大学院研究生	4) 研究者	5) 研修医	
	6) 事務系職員					

配偶者（あるいはパートナー）の有無： 1) なし 2) あり

1) の方は、2～3 ページの設問にお答えください。

2) の方は、4～5 ページの設問にお答えください。

ご記入頂いた方は、平成 25 年 9 月 25 日（水）までに下記にご提出頂けますようお願い申し上げます。

（回収 BOX を設置致します）

女性支援部（1号館西 5階 522号室）

内線：4921

結婚されていない方にお尋ねします。

1. いつ頃結婚したいと考えていますか？
①学生の間（大学院生含む） ②卒業後、または学位を取得してから ③非常勤で就職してから
④常勤で就職してから ⑤仕事が一段落してから ⑥いつでも ⑦結婚したくない
⑧まだわからない ⑨その他（ ）

2. 結婚相手を考えるとき、重要視するものは何ですか？（3つまで）
①経済力 ②学歴 ③家族背景 ④人柄 ⑤容姿 ⑥年齢 ⑦職種 ⑧その他
（ ）

3. 結婚後、パートナーと分担したいと思う家事は何ですか？（複数回答可）
①掃除 ②料理 ③洗濯 ④買い物 ⑤分担したくない ⑥その他（ ）

4. 結婚後子どもがほしいと考えていますか？
①はい ②いいえ ③まだわからない

5. 設問4. で①はい、と答えた方にお尋ねします。
子どもは何人ぐらいほしいと考えていますか？
①1人 ②2人 ③3人 ④4人以上 ⑤まだわからない

6. 設問4. で①はい、と答えた方にお尋ねします。
いつ頃子どもが欲しいと考えていますか？
①学生の間（大学院生含む） ②卒業後、または学位を取得してから ③非常勤で就職してから
④常勤で就職してから ⑤仕事が一段落してから ⑥いつでも ⑦まだわからない
⑧その他（ ）

7. 子どもができた後も仕事や研究を続けたいと考えていますか？
①フルタイムで続けたい ②パートタイムで続けたい ③仕事を辞めたい
④状況による ⑤その他（ ）

8. 子どもが産まれたら育児休業を取りたいと考えていますか？
①はい ②いいえ ③まだ分からない

9. 設問 8. で①はい、と答えた方にお尋ねします。

どのぐらいの期間育児休業を取りたいと考えていますか？

①2週間以内 ②1ヶ月以内 ③3ヶ月以内 ④半年以内 ⑤1年以内 ⑥3年以内⑦わからない

その期間を選んだ理由は何ですか？

()

10. 育児のために一時仕事や研究から離れた場合に、どのようなことが復帰の障害になると考えていますか？

()

11. 結婚後、プライベートの時間と仕事の時間をどれぐらいの割合で持ちたいと考えていますか？

プライベートの時間→ (%) 仕事の時間→ (%)

12. 家庭とキャリアを両立するうえで1番重要なことは何だと思えますか？

()

ご協力ありがとうございました。

結婚されている方にお尋ねします。

1. いつ結婚されましたか？
①学生の間（大学院生含む） ②卒業後、または学位を取得してから ③非常勤で就職してから
④常勤で就職してから ⑤仕事が一段落してから ⑥その他（ ）

2. 結婚相手を決める際何を重視しましたか？（複数回答可）
①経済力 ②学歴 ③家族背景 ④人柄 ⑤容姿 ⑥年齢 ⑦職種
⑧その他（ ）

3. パートナーと分担している家事は何ですか？（複数回答可）
①掃除 ②料理 ③洗濯 ④買い物 ⑤分担していない ⑥その他（ ）

4. お子さんはいらっしゃいますか？
①はい ②いいえ

5. 設問 4. で①はい、と答えた方にお尋ねします。
子どもが生まれたのはどのタイミングでしたか？
①学生の間（大学院生含む） ②卒業後、または学位を取得してから ③非常勤で就職してから
④常勤で就職してから ⑤仕事が一段落してから ⑥その他（ ）

6. 設問 4. で②いいえ、と答えた方にお尋ねします。
どのタイミングで子どもが欲しいと考えていますか？
①学生の間（大学院生含む） ②卒業後、または学位を取得してから ③非常勤で就職してから
④常勤で就職してから ⑤仕事が一段落してから ⑥いつでも
⑦まだわからない ⑧子どもは欲しくない ⑨その他（ ）

7. 子どもができた後も仕事を続けましたか？または続けたいと思いますか？
①フルタイムで続けている、または続けたい ②パートタイムで続けている、または続けたい
③子どもができた際一度仕事を辞めた、または辞めたい ④状況による
⑤その他（ ）

8. 子どもは何人ぐらい欲しいと考えていますか？
①1人 ②2人 ③3人 ④4人以上 ⑤欲しくない ⑥わからない

9. 子どものいる方、あるいは子どもを欲しいと思っている方にお尋ねします。
子どもが生まれた後には育児休業を取りましたか？また、今後出産する場合は取りたいと思いますか？

①はい ②いいえ ③分からない

10. 設問9で①はい、と答えた方にお尋ねします。

どのぐらいの期間育児休業を取りましたか？または取りたいと考えていますか？

①2週間以内 ②1ヶ月以内 ③3ヶ月以内 ④半年以内 ⑤1年以内 ⑥3年以内

その期間を選んだ理由は何ですか？

()

11. 育児のために一時仕事や研究から離れた場合に、どのようなことが復帰の障害になると考えていますか？／障害になりましたか？

()

12. 結婚後、プライベートの時間と仕事の時間をどれぐらいの割合で持つことができますか？

プライベートの時間→ (%) 仕事の時間→ (%)

13. 家庭とキャリアを両立するうえで1番重要なことは何だと思えますか？

()

ご協力ありがとうございました。

Questionnaire of Balancing family and career

The Center for Student and Female Staff work for career development of the students of TMDU. Through this survey program, we are going to evaluate the awareness towards balancing work and life among married and unmarried individuals (Japanese & International students / workers) of TMDU. We would like to compare the maintenance of work and family between married and unmarried individuals of TMDU. After getting your response we shall try to find out what kind of support / activities may bring a great improvisation of the study and working levels of them. After that, we would like to propose to TMDU to make those changes that will make better work and life balance. We hope you will participate in the survey since your views are important.

All of the personal information provided by you shall be kept strictly confidential. It shall not be shown to the other persons and shall not go out of this university.

Please check.

Age	: 1) ~19	2) 20~29	3) 30~39	4) 40~49	5) 50~59	6) 60~
Sex	: 1) Male	2) Female				
Nationality	: 1) Japanese	2) Others				
Occupation	: 1) Undergraduate student	2) Graduate student	3) Special student			
		4) Researcher				

Marital Status : 1) Married 2) Unmarried

For unmarried person, please answer questions on 2-3 pages.

For married person, please answer questions on 4-5 pages.

Please return this paper after completion to Support Center for Students and Female Staff by 9/25, Wed.

(Building no. 1 West, 5th Floor, Room no. 522)

The "Return Box" will be placed.

Unmarried (Both Male and Female)

1. When are you planning to get settled / when do you want to get married?
 - 1) During student life
 - 2) After getting a degree
 - 3) After getting a part time job
 - 4) After getting a full time job
 - 5) After finishing the project
 - 6) Anytime
 - 7) Do not wish to marry
 - 8) Not decided yet
 - 9) Others ()

2. What are the points you would see while choosing your life partner? (Please choose any 3 of the following)
 - 1) Financial independence
 - 2) Educational background
 - 3) Family background
 - 4) Character
 - 5) Physical appearance
 - 6) Age limit
 - 7) Profession
 - 8) Others ()

3. What kind of household work you would like to share with your partner? (Please check all that apply)
 - 1) Cleaning
 - 2) Cooking
 - 3) Washing
 - 4) Grocery Shopping
 - 5) Do not want to participate in household work
 - 6) Others ()

4. Do you want to have any children?
 - 1) Yes
 - 2) No
 - 3) Not sure yet

5. If YES for question No.4, how many children do you want to have?
 - 1) One
 - 2) Two
 - 3) Three
 - 4) More than four
 - 5) Not sure yet

6. If YES for question No.4, After getting married when do you want to have your family planned?
 - 1) During student life
 - 2) After getting a degree
 - 3) After getting a part time job
 - 4) After getting a full time job
 - 5) After finishing the project
 - 6) Anytime
 - 7) Not decided yet
 - 8) Others ()

7. How would you like to work after having children?
 - 1) As a full timer
 - 2) As a part timer
 - 3) Be a full-time housewife or househusband
 - 4) Depends on situation
 - 5) Others ()

8. Do you want to take child care leave after having children?
 - 1) Yes
 - 2) No
 - 3) Not sure yet

9. If YES for question No.8, how long do you want to take child care leave?

- 1) 2 weeks 2) A month 3) 3 months 4) Half a year 5) A year 6) 3 years 7) Not sure

Why do you choose that term?

()

10. While taking temporary leave after having child, what might be the obstacles for returning to work?

()

11. After getting married, How would you like to balance private life and work career?

Private life→(%) Work Career→(%)

12. In your opinion, what is the most necessary element required to balance family life and work career?

()

Thank you for your cooperation.

Married (Both Male and Female)

1. When did you get settled / when did you get married?
 - 1) During student life 2) After getting a degree 3) After getting a part time job
 - 4) After getting a full time job 5) After finishing the project 6) Others()

2. What are the points you saw while choosing your life partner? (Please choose any 3 of the following)
 - 1) Financial independence 2) Educational background 3) Family background
 - 4) Character 5) Physical appearance 6) Age limit 7) Profession
 - 8) Others()

3. What kind of household work do you share with your partner? (Please check all that apply)
 - 1) Cleaning 2) Cooking 3) Washing 4) Grocery Shopping
 - 5) Do not to participate in household work 6) Others()

4. Do you have any children?
 - 1) Yes 2) No

5. If YES for question No.4, when did you have children?
 - 1) During student life 2) After getting a degree 3) After getting a part time job
 - 4) After getting a full time job 5) After finishing the project 6) Others()

6. If NO for question No.4, when do you want to have your family planned?
 - 1) During student life 2) After getting a degree 3) After getting a part time job
 - 4) After getting a full time job 5) After finishing the project 6) Anytime 7) Not decided yet
 - 8) Do not want to have any children 9) Others()

7. How did you continue to work after having children? / OR How would you like to work after having children?
 - 1) As a full timer 2) As a part timer 3) Be a housewife / househusband 4) Depends on situation
 - 5) Others()

8. How many children do you want to have?

- 1) One 2) Two 3) Three 4) More than four 5) Do not want to have any children 6) Not sure yet

9. Did you take child care leave? / OR Do you want to take child care leave?

- 1) Yes 2) No 3) Not sure yet

10. If YES for question No.9, how long did you / do you want to take child care leave?

- 1) 2 weeks 2) A month 3) 3 months 4) Half a year 5) A year 6) 3 years 7) Not sure

Why do you choose that term?

()

11. While taking temporary leave after having child, what were / might be the obstacles for returning to work?

()

12. How would you like to balance private life and work career?

Private life→(%) Work Career→(%)

13. In your opinion, what is the most necessary element required to balance family life and career?

()

Thank you for your cooperation.

Result of the answers to “Face sheet”

Unmarried N=157

Male 65	Age	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69		
		44 (68%)	19 (29%)	1 (0.02%)	1 (0.02%)	0		
Nationality	Japanese	Others						
	55 (85%)	10 (15%)						
Occupation	Undergraduate student	Graduate student	Special student	Researcher	Resident	Administrative staff	Others	
	19 (29%)	28 (43%)	0	5 (0.1%)	0	9 (0.1%)	4 (0.1%)	
Female 92	Age	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69		
		54 (59%)	35 (38%)	3 (3%)	0	0		
Nationality	Japanese	Others						
	64 (70%)	27 (30%)						
Occupation	Undergraduate student	Graduate student	Special student	Researcher	Resident	Administrative staff	Others	
	11 (12%)	41 (45%)	4 (4%)	9 (10%)	0	11 (12%)	13 (14%)	

Married N=129

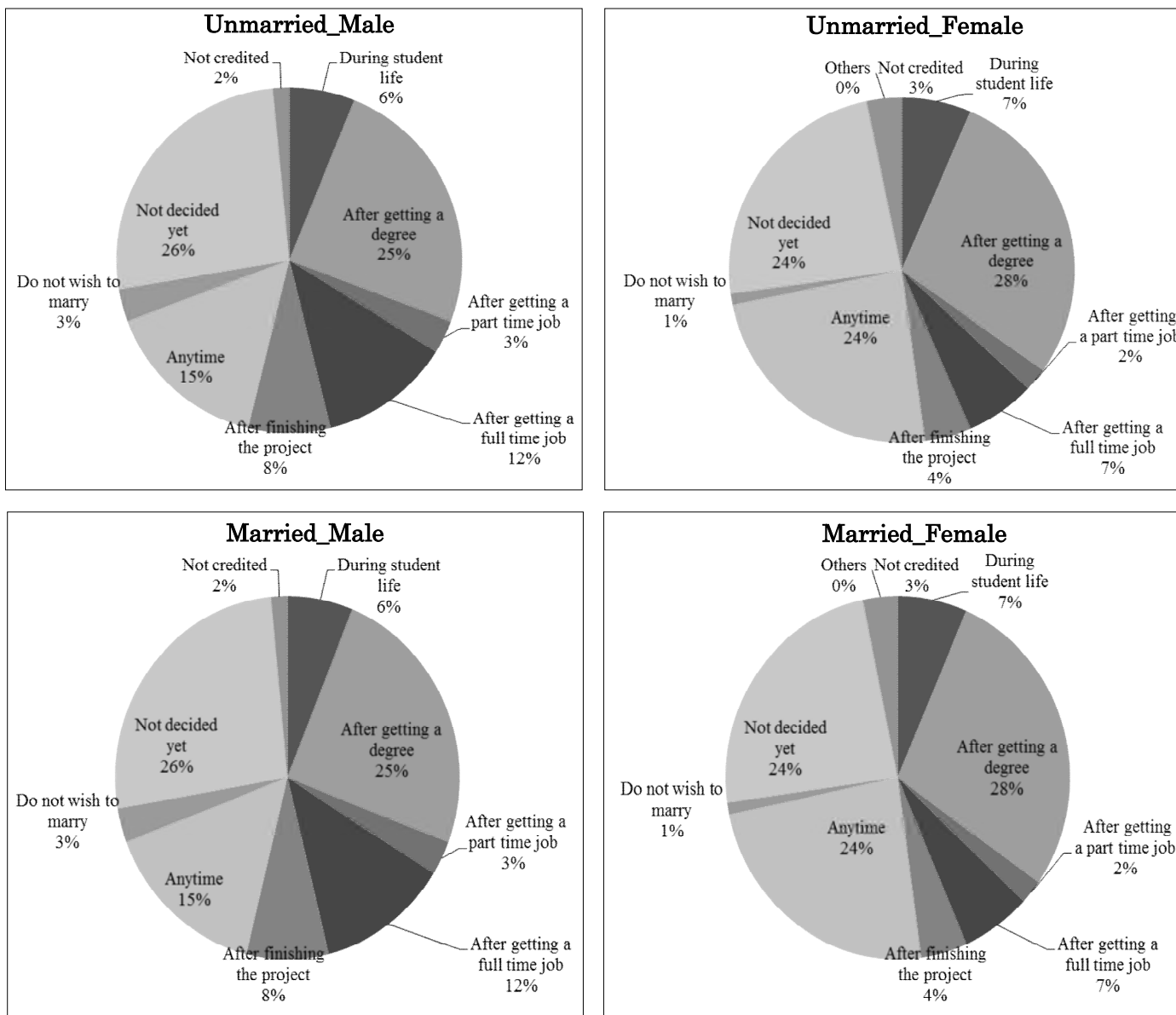
Male 63	Age	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69		
		5 (8%)	37 (59%)	15 (24%)	5 (8%)	1 (2%)		
Nationality	Japanese	Others						
	35 (56%)	28 (44%)						
Occupation	Undergraduate student	Graduate student	Special student	Researcher	Resident	Administrative staff	Others	
	1 (2%)	25 (40%)	1 (2%)	15 (24%)	1 (2%)	12 (19%)	8 (13%)	
Female 66	Age	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69		
		11 (17%)	37 (56%)	13 (20%)	4 (6%)	1 (2%)		
Nationality	Japanese	Others						
	41 (62%)	25 (38%)						
Occupation	Undergraduate student	Graduate student	Special student	Researcher	Resident	Administrative staff	Others	
	1 (2%)	27 (41%)	1 (2%)	7 (11%)	0	13 (20%)	17 (26%)	

【表 1 回答者の年齢・国籍・身分の内訳】

今回のアンケートでは、総数 286 名からの回答を得ることが出来た。昨年度の Web 入力による既婚者対象のアンケートでの回答者総数が 358 名だったことと比較すると、今回のアンケートでは対象者の婚姻の有無を問わなかったにも関わらずやや回答数が少なかったと考えられる。この原因として今回のアンケートの配布はポスティング形式だったこと、回答期間が 2 週間程度だったことが考えられる。しかしながら、内訳としては未婚女性の回答数が他と比べて多いものの、未婚男性・既婚者の回答者数にバラつきを少なく回収することができた。Web 形式で行っていた前回と比較して、外国籍の回答者の回答数も 12% から 32% まで増やすことができ、回答者のバラつきをおさえることができた。

1. When do you want to (or did you) get married?

(Unmarried : Q.1 Married : Q.1)

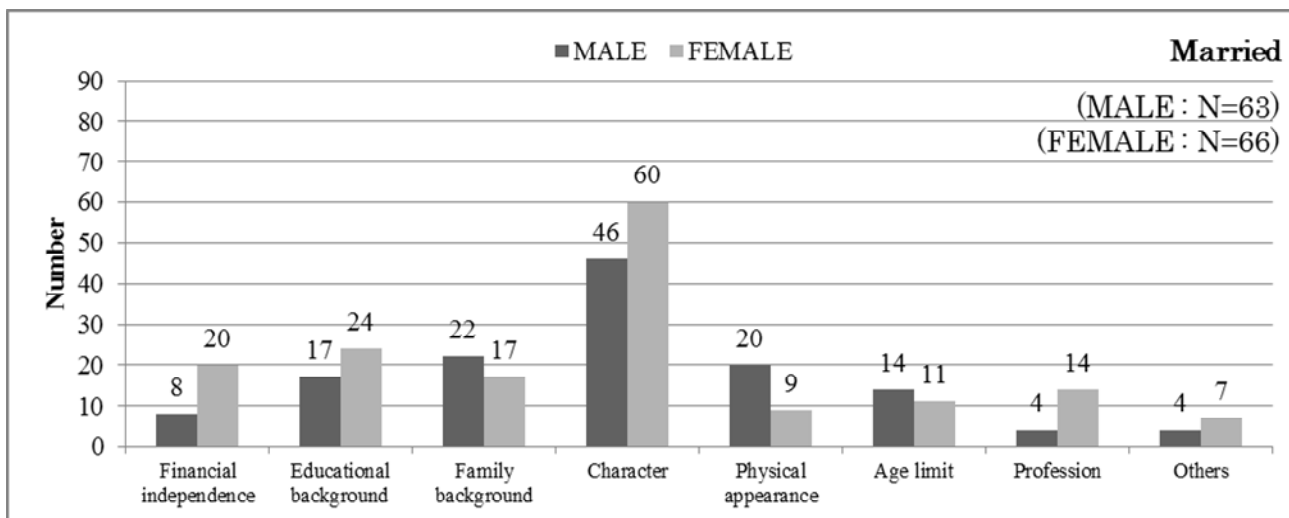
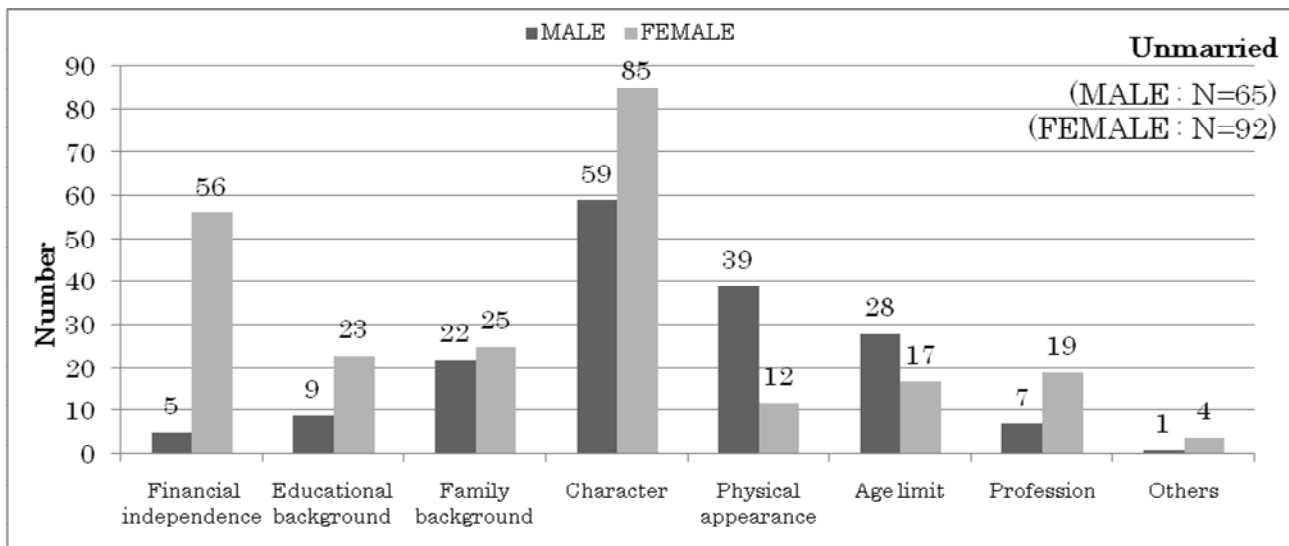


【図1 結婚したい時期 / 結婚した時期】

未婚者の結婚したい時期は男女ともに「学位を取った後」という回答が多かった一方、既婚者では男女ともに「就職後」という回答が最も多かった。また、既婚者の男女間で比較すると、男性の方が「就職後」に結婚した割合が多い。このことから、結婚するうえで、お互い（特に男性）に経済力が身についたから、結婚している人が多いことが考えられる。未婚者の結婚を望む時期と既婚者の実際に結婚した時期に差異がみられたことから、未婚者の家庭とキャリアの両立についての考えが現実に即していない可能性が考えられ、家庭とキャリアの両立の現状を理解することが必要であると考えられる。

2. What are the points you see (or saw) while choosing your partner?

(Unmarried : Q.2 Married : Q.2)



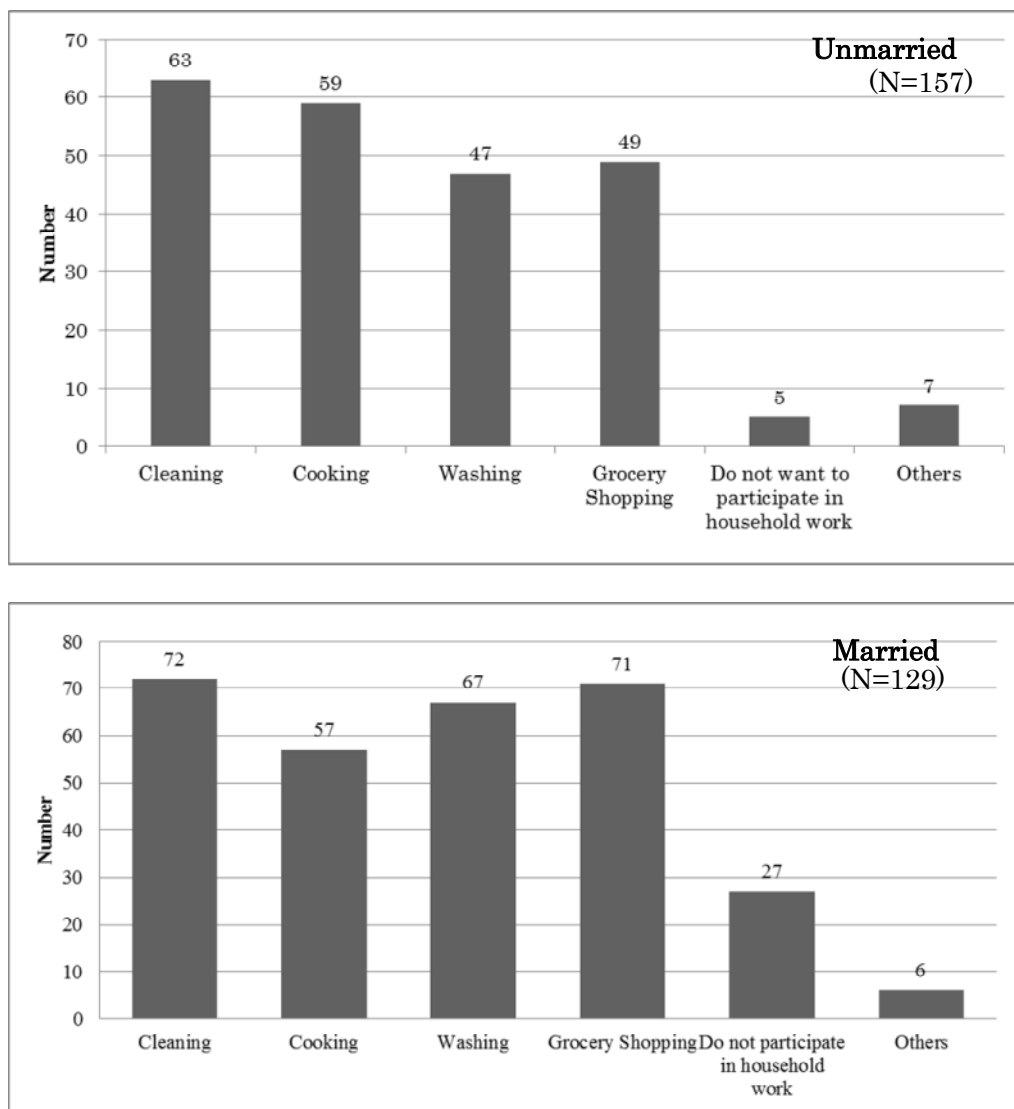
【図2 配偶者（もしくはパートナー）に求める条件】

配偶者に対して求める条件は、未婚男性が「容姿」、未婚女性が「経済力」に対しての選択がかなり多いことが印象的な結果となった。対照的に、既婚者では「容姿」「経済力」に突出した傾向は見られなかった。この理由として、未婚者は既婚者と比べて、ともに生活していくパートナーに対してステータスをより強く求めていると考えられる。

未婚者・既婚者ともに配偶者に対して「性格」を重視することが顕著に示された。やはり生活をともにしていくうえでお互いの相性が何よりも大切だということが、今回のアンケートの結果からも明らかとなった。

3. What kind of household work do you (want to) share with your partner?

(Unmarried : Q.3 Married : Q.3)



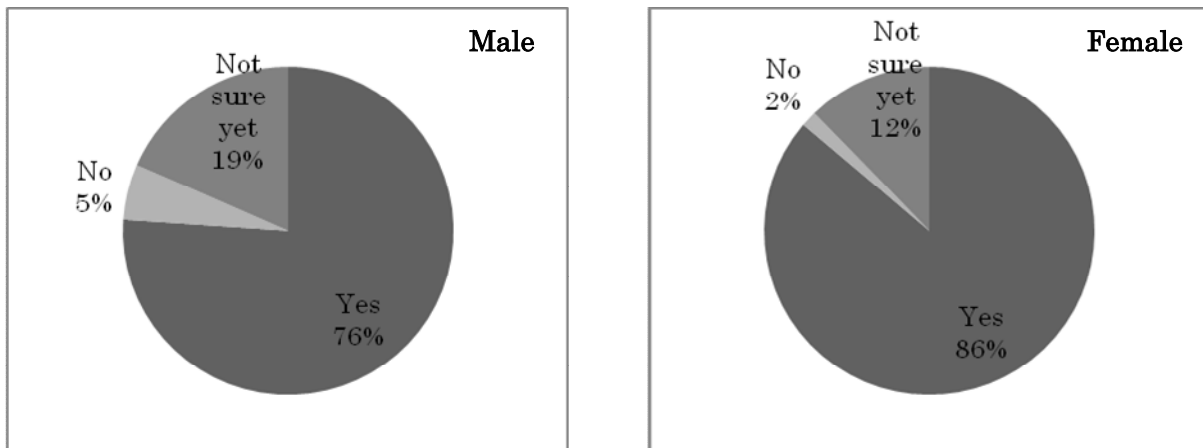
【図3 配偶者にしてもらいたい（もしくは、してもらっている）家事】

本項目においては、未婚者間・既婚者間での男女による違いが見られなかったことから、男女の回答を合わせたグラフのみを示している。未婚者の希望する家事の分担と同様の結果が既婚者の回答から得られたことから、本学における既婚者は、未婚者が求めるものと遜色なく家事の分担ができていることも推測される。また、未婚者の回答からは家事の分担に関して好意的な一方で、「家事を分担していない家事をしていない」と答えた既婚者の数がかなり増えていることから、実際にフルタイムで働き続けていると、家事は配偶者に任せきりになってしまうことがあると考えられる。

【未婚者について / About Unmarried】

4. Do you want to have any children?

(Unmarried : Q.4)

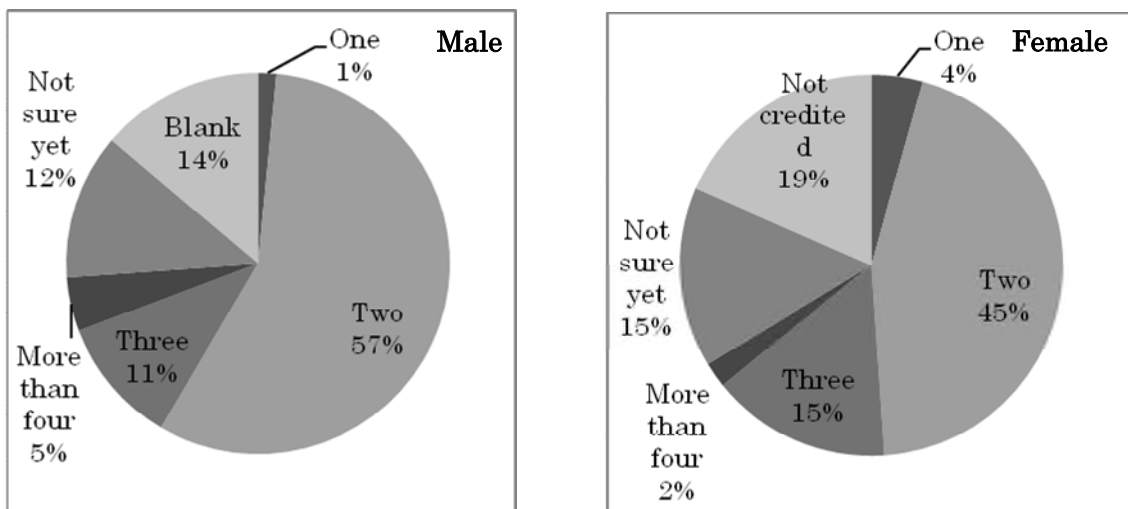


【図4 未婚者の子供を持ちたいと考えている人の割合】

子供を持ちたいと考えている者は男性76%、女性86%と男女ともに高い割合であった。全体的な割合でも、目立った男女差は見られなかった。

5. How many children do you want to have?

(Unmarried : Q.5)

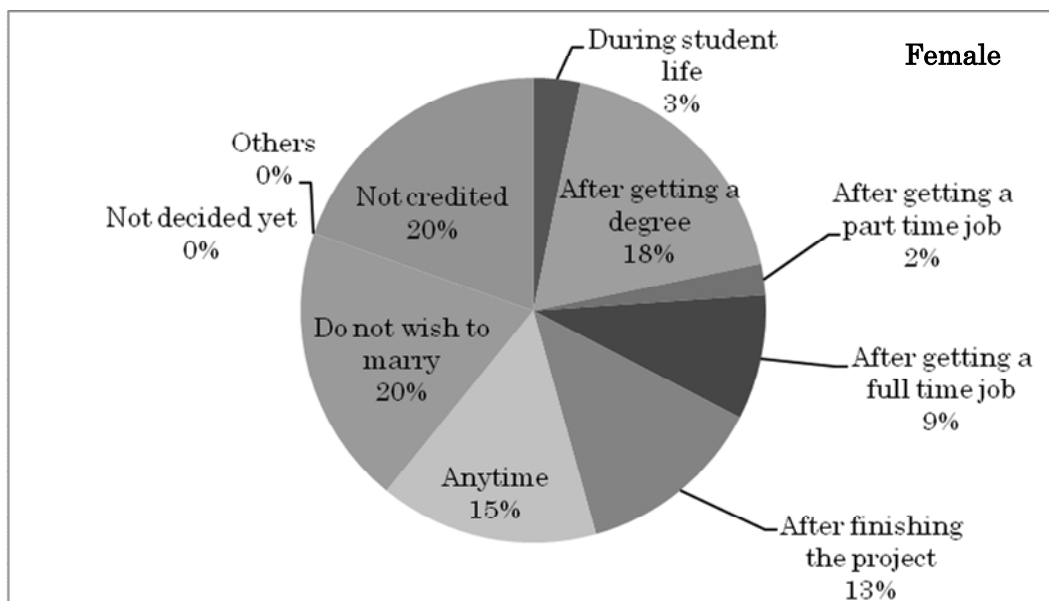
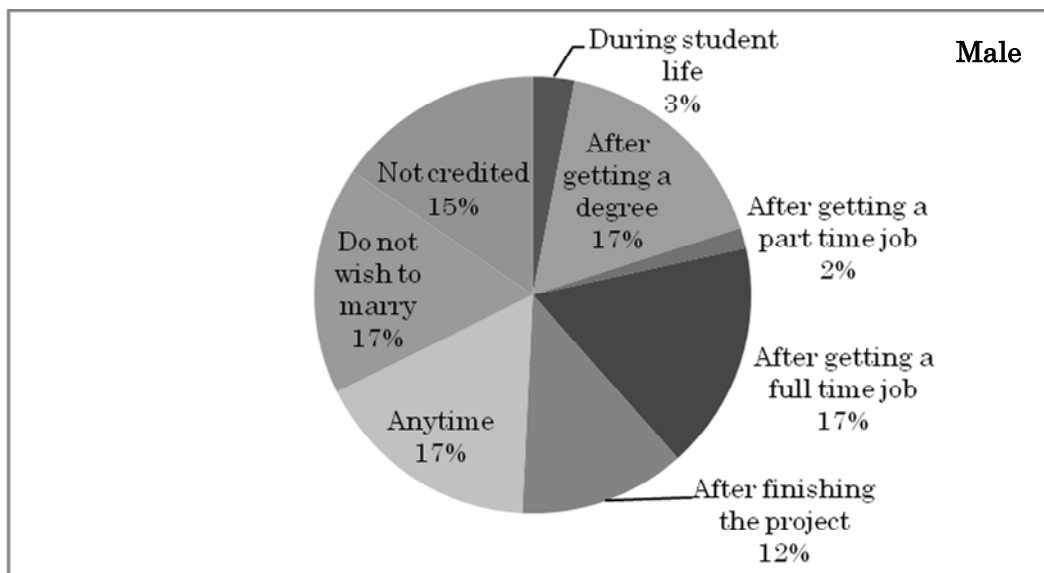


【図5 未婚者の希望する子供の人数】

男女ともに2人、ついで3人と多く、複数の人数の子供を持ちたいという意見が多かった。また男性には未回答が目立っており、未婚男性は出産に具体的なイメージを持ちづらいことが考えられる。

6. When do you want to your family planned?

(Unmarried : Q.6)



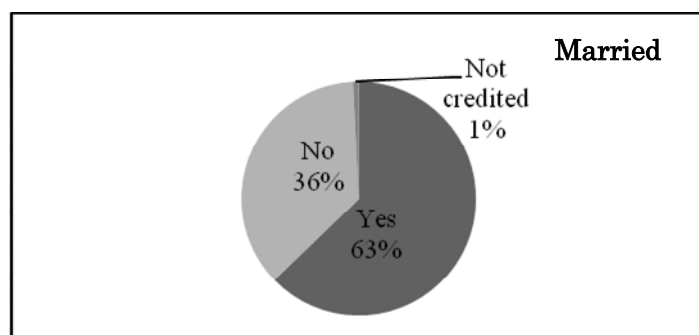
【図6 未婚者の子供が欲しいと考えている時期】

男女別に大きな違いはなく、男女共に子供が欲しい時期はさまざまであった。しかし僅かに男性の方が「常勤で就職してから」と考えている割合が多かった。このことより、子供を設ける時期に関して男性は女性に比べ仕事という部分を特別なターニングポイントとしていることが考えられる。

【既婚者について / About Married】

4. Do you have any children?

(Married : Q.4)

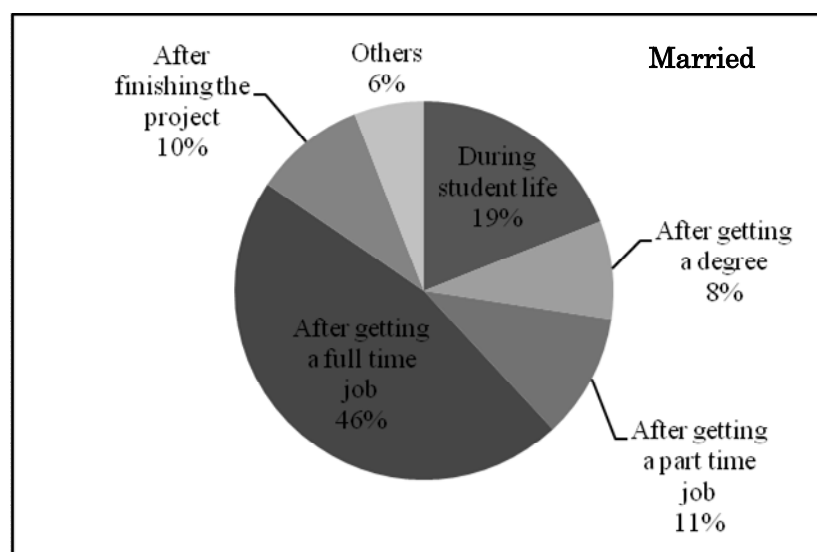


【図7 既婚者の子供の有無】

回答の得られた既婚男女のうち子供がいる者は63%、子供がいない者は36%であった。回答の得られた本学の既婚者の半数以上は子供がいることが分かった。

5. When did you have your children?

(Married : Q.5)

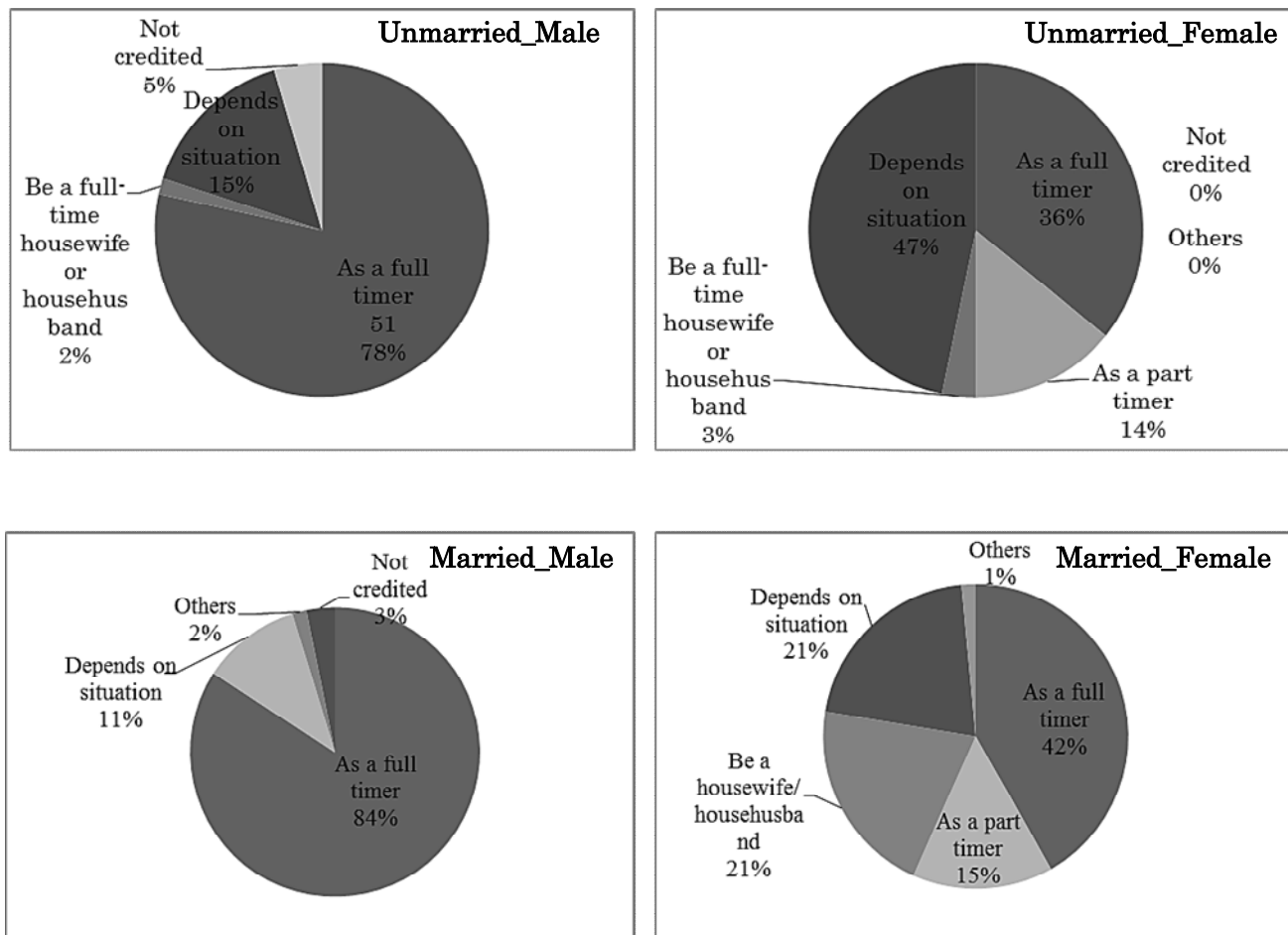


【図8 既婚者の子供を産んだ時期】

「常勤で就職してから」という回答が約半数を占めていたものの、次いで多かった回答は「学生の間」であった。このことから、子供を産む時期に関して仕事の有無が大きく左右することはないということがいえる。

7. Do you want to continue to work after having children?

(Married : Q.7)



【図9 子供が出来た後にどのように働きたいか、もしくは働いているか】

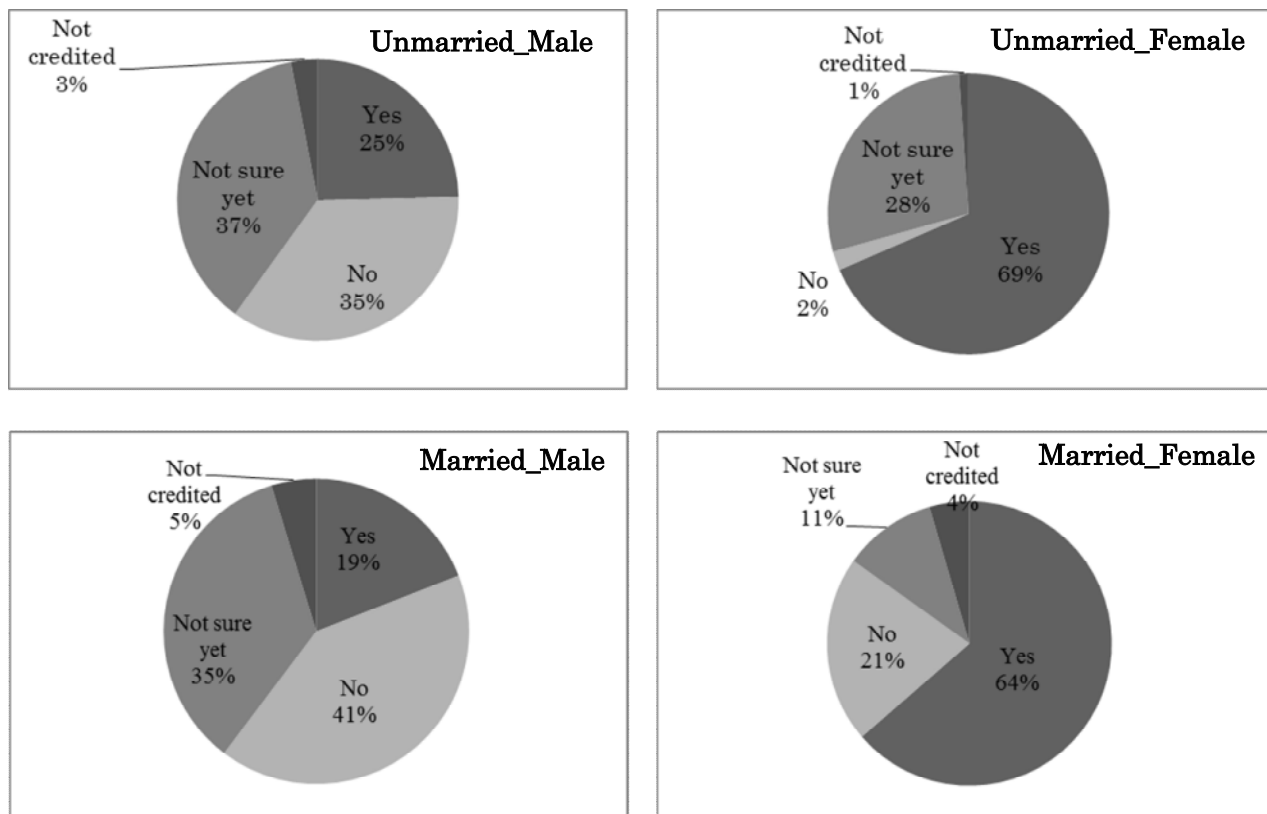
男性では未婚・既婚共に、子供が出来た後もフルタイムで働きたい者・働いている者が多く、顕著な差がみられなかった。

しかし、女性では未婚・既婚で大きな差が生じており、既婚女性では出産後に専業主婦になる者の割合が、未婚女性が希望している意識よりも高い割合を示していた。

このことより、女性においては子供の有無が仕事を続ける事に対して影響を与えており、また実際に仕事を続けることに障害が生じていることが示唆される。

8. Do you want to take child care leave?

(Unmarried : Q.8 Married : Q.9)

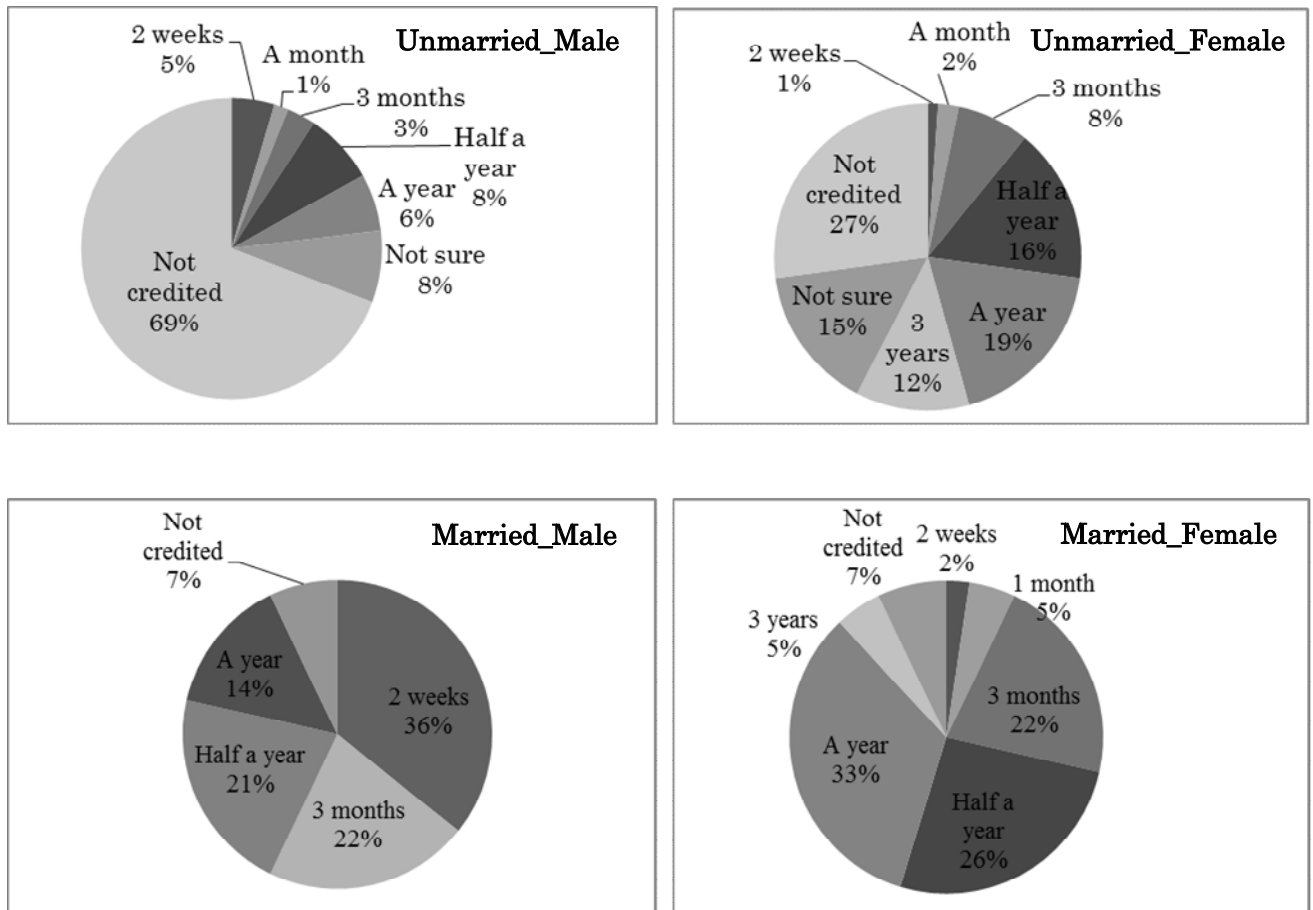


【図10 育児休業をとりたいか（とったか）】

未婚者の「育児休業をとりたい」と考えている人の割合は、既婚者の「育児休業をとった、またはとりたい」と考えている人の割合に比べ、男女ともに多い傾向にあった(未婚女性 69%、既婚女性 64%、未婚男性 25%、既婚男性 19%)。育児休業制度の改正・普及がすすみ、若年者の間に育児休業の概念が広がっていることがうかがえる。未婚女性で「育児休業をとりたくない」と答えた人の割合は 2%とわずかだった。しかし、既婚女性の「育児休業をとらなかった、とりたくない」と答えた人の割合が 21%だったことを考慮すると、実際には職場や家庭等の事情により、望むように育児休業をとれない場合があることも考えられた。

9. How long do you want to take (did you take) child care leave?

(Unmarried : Q.9 Married : Q.10)

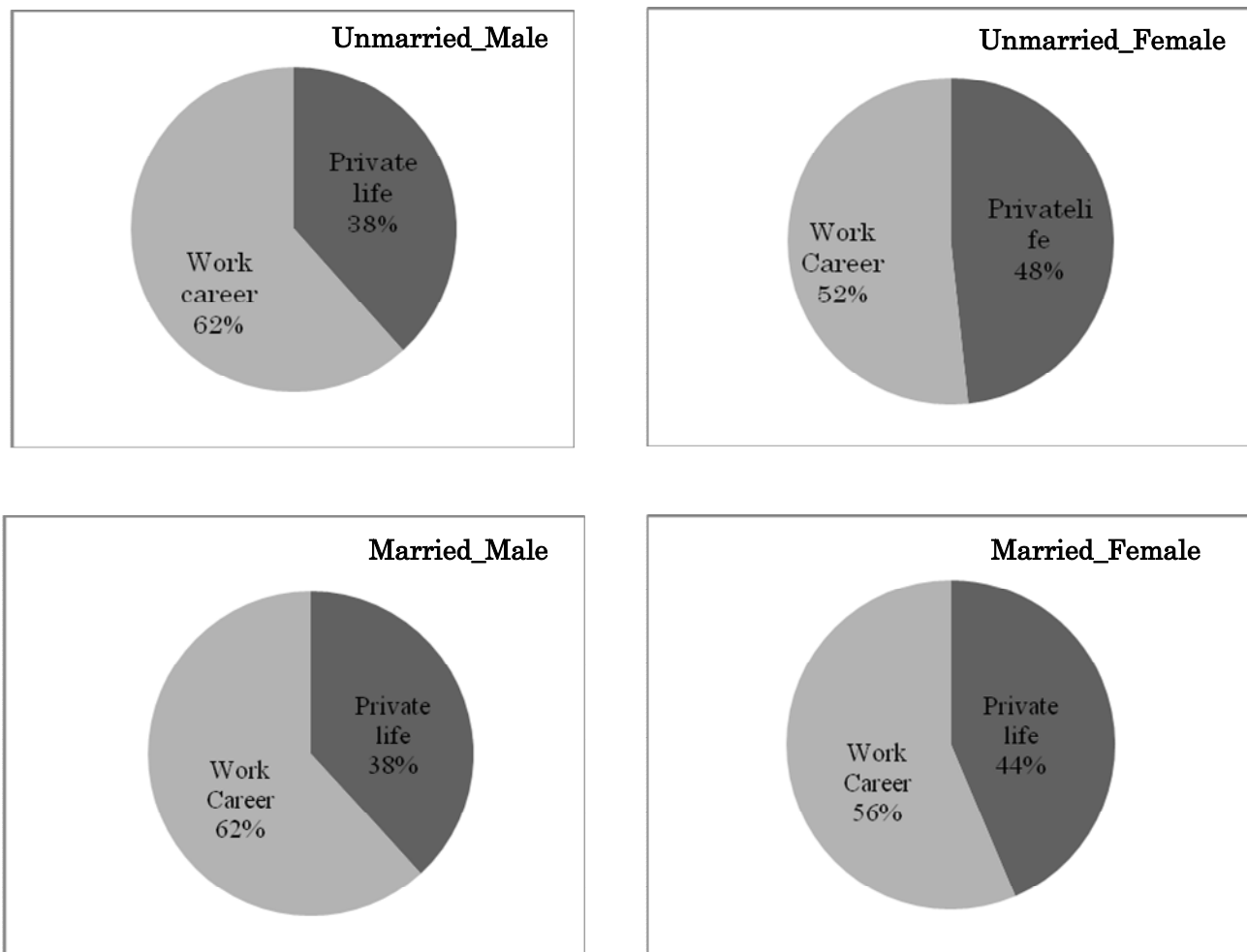


【図 11 どのくらいの期間育児休業をとりたいか（とったか）】

育児休業期間については、未婚者は男女とも「まだわからない」との回答が多く、具体的にイメージするのが難しい項目のようだった。未婚女性の回答は、「半年」・「1年」・「3年」の3つの回答が大きな割合を占めるのに対し、既婚女性では「3ヶ月」・「半年」・「1年」の3つが多数となっており、全体的に短めになっていた。未婚男性については2ヶ月から1年まで答えが分散していたが、既婚男性の回答では「2週間」との回答が最も多く、「2週間」・「3ヶ月」・「半年」の3つの回答で8割近くを占めていた。出産後、長く育児休業をとり育児に時間をさきたいと思う人は多いものの、やはり長期のブランクは仕事復帰を難しくするということもあり、実際の取得期間は望む期間よりも短くなる傾向にあると考えられた。

11. How would you like to balance private life and work career after getting married?

(Unmarried : Q.11 Married : Q.12)



【図 12 結婚後、プライベートの時間と仕事の時間をどの割合でとりたいか（とれているか）】

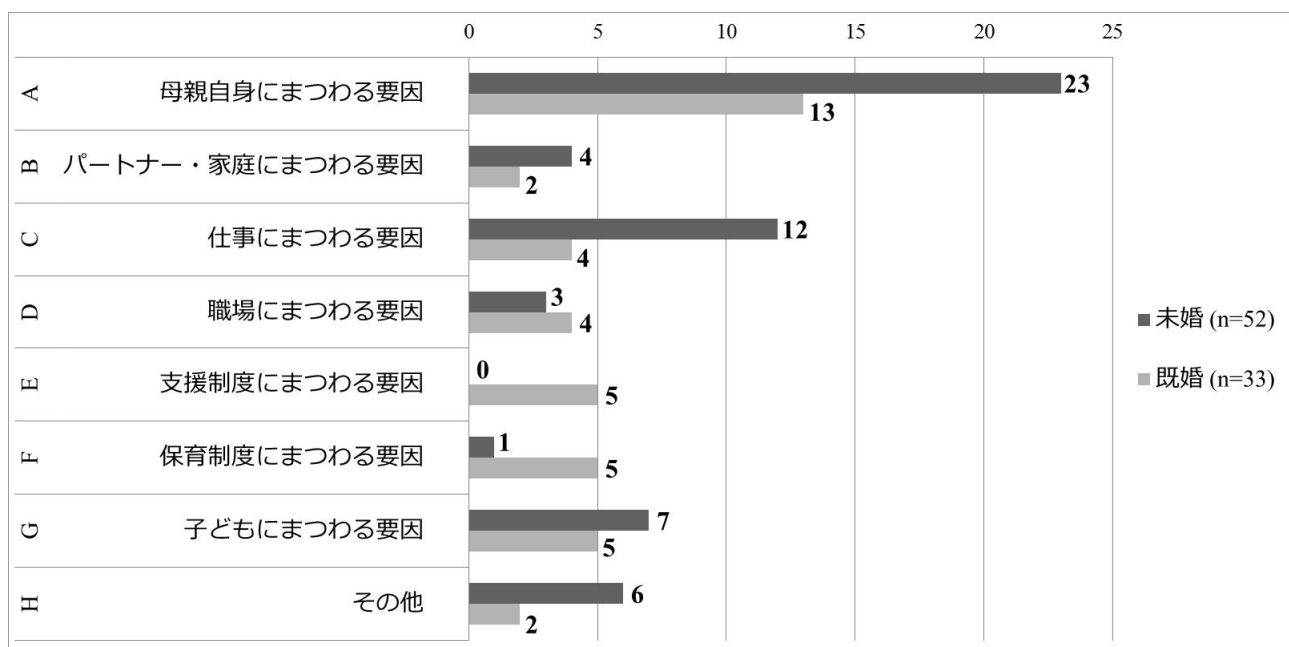
男性は未婚者と既婚者に差はなく(いずれもプライベート 38%、仕事 62%)、女性では既婚女性の回答の方が、プライベートの割合が少なく、仕事の割合が多いという結果になった (未婚女性：プライベート 48%、仕事 52%、既婚女性：プライベート 44%、仕事 56%)。結婚前に考えるほど、女性が家庭にさける時間は多くないと考えられる一方で、本学で働く、あるいは就学する女性は専門性の高い職業・分野の場合も多いため、結婚・出産の後も仕事や学業にしっかり復帰・復学しているという面もうかがえた。

Analysis for the free comments

9. The reason why do you choose that term of child care leave.

(Unmarried: Q.9 Married: Q.10)

<For Japanese>



【図 13 育児休業の期間を選ぶ（選んだ）理由に関わる要因】

育児休業の取得期間を選ぶ（選んだ）際に影響を及ぼす要因として、未婚者で最も回答が多かったのは「母親にまつわる要因」（44.2%）であり、次いで「仕事にまつわる要因」（23.1%）、「子どもにまつわる要因」（13.5%）であった。一方、既婚者では、「母親にまつわる要因」（39.4%）が最も多い点は未婚者と共通していたが、それに次ぐ要因として、「支援制度にまつわる要因」（15.2%）、「保育制度にまつわる要因」（15.2%）、「子どもにまつわる要因」（15.2%）、「仕事にまつわる要因」（12.1%）、「職場にまつわる要因」（12.1%）などに、ほぼ同数の回答が集まった。

未婚者・既婚者ともに、母親にまつわる要因に多くの回答が集まったが、既婚者では育児休業から復帰する際に必要となる保育制度や支援制度に関する回答数もそれに次いで多く、実際に取得した際に影響した要因であることが推測される。

● Japanese Free Comments:

A. 母親自身にまつわる要因

- ・ しばらくは育児に専念したい
- ・ 自分の体を回復させるため
- ・ 自分が子育てに慣れて、落ち着くと思う

B. パートナー・家庭にまつわる要因

- ・ 親がそれぐらい取っていた
- ・ 自分自身や家族の生活が安定しそう

C. 仕事にまつわる要因

- ・ あまり長期に休業を取ると復職に不安を感じる
- ・ キャリアを長期間中断することには不安がある
- ・ 長年担当してきた患者が自分の復帰を待っていた

D. 職場にまつわる要因

- ・ 自分が休んでいる間に他の人の仕事の負担が増える
- ・ あまり長すぎると職場に迷惑がかかると思う
- ・ 1年くらいで職場に戻ってくる人が多い

E. 支援制度にまつわる要因

- ・ その期間しか休業できなかった
- ・ 職場の規定で1年までだった

F. 保育先にまつわる要因

- ・ 保育園に預けやすい月齢に達するため
- ・ 保育園入園のタイミング
- ・ 保育園の空き状況によって

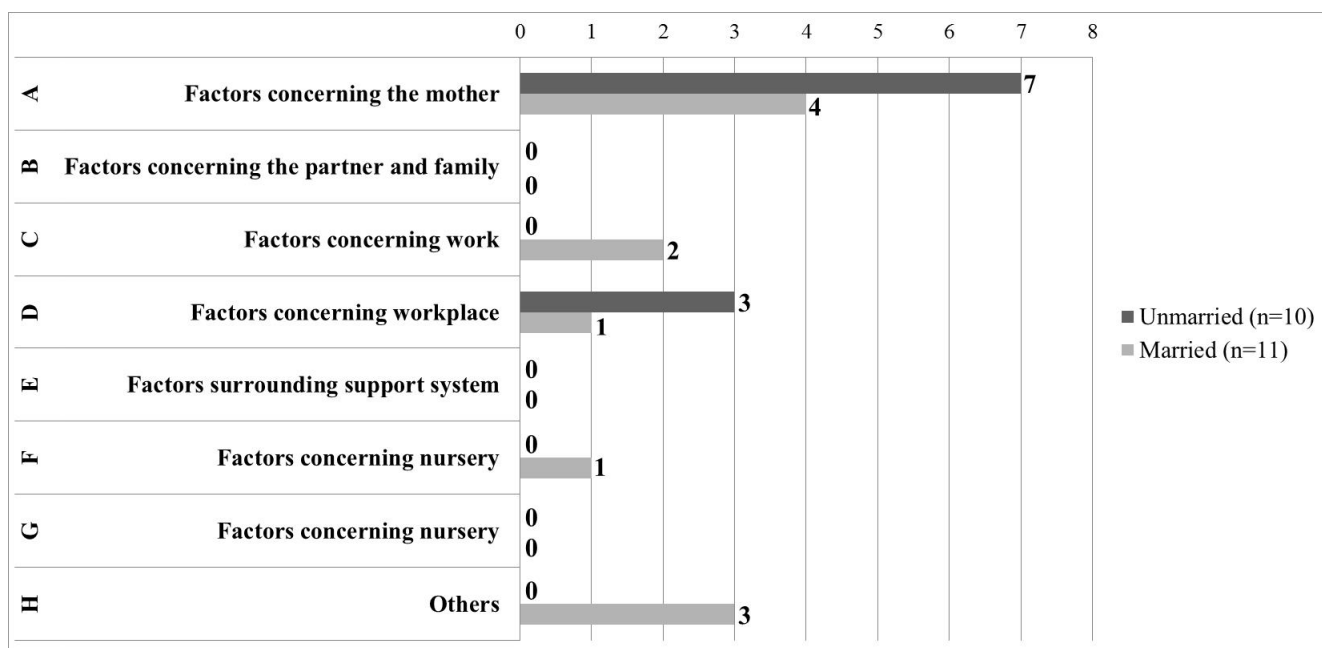
G. 子どもにまつわる要因

- ・ 母乳をしっかり飲ませたい
- ・ 母親や子どもの体力や環境が整うために必要な期間だと考えた
- ・ 託児所に預けるにあたり、やはり生後半年は様子（病気等）をみたい

H. その他

- ・ 知人等の育児休業を取った期間が、半年程度が多かった
- ・ 世界旅行に行きたい
- ・ 厚労省の統計の平均（1年以内）

<For Foreigners>



【Fig 14 The reason why do you choose that term of child care leave】

70% of unmarried and 36.4% of married thinks that time period chosen by them is enough for the new born baby’s growth and development. 30% of unmarried considers returning back to the work as early as possible and 27.3% of married says it is not necessary to take a long leave.

●Analysis for free comments

A. Factors concerning the mother

- An essential time period for the mother to take care of their new born babies.
- Resting phase for mother after delivery.

C. Factors concerning work

- Early return to work.

D. Factors concerning workplace

- The working system is unfavorable.

E. Others

- It is not necessary to take a long leave.

● Some free comments of participants:

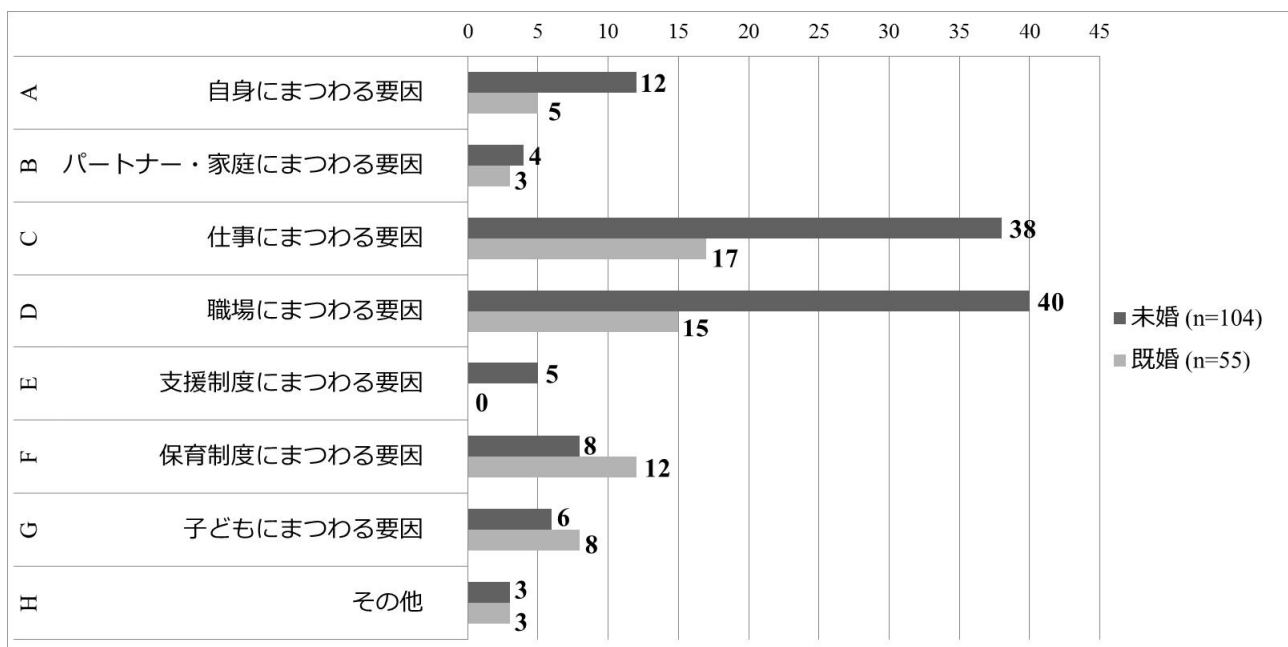
- “Probably enough time to nurse the baby until he/she could be ready for bottle feeding and can allow others to take care of him/her.”
- “After delivery new mom need to take rest to make herself recover from any discomfort during delivery. Also new baby needs to be nursed (breast feed).”
- “Because I have to resume my work/study as soon as possible.”
- “My study does not allow me to take longer leave and 3 months is the shortest time I can accept.”



10. The obstacles after returning to work after having child.

(Unmarried: Q.10 Married: Q.11)

<For Japanese>



【図 15 育児のために一時仕事や研究から離れた場合に、復帰の障害となり得る（なった）要因】

育児のために一時仕事や研究から離れた場合に、復帰の障害となり得る（なった）と考えられる要因として、未婚者では「職場にまつわる要因」（38.5%）と「仕事にまつわる要因」（36.5%）の2つに多くの回答が集中した。一方、既婚者では、未婚者と同様に「仕事にまつわる要因」（30.9%）と、「職場にまつわる要因」（27.3%）への回答が多く集まったが、それらに次いで「保育制度にまつわる要因」（21.8%）と「子どもにまつわる要因」（14.5%）にも多くの回答が集まった。

未婚者・既婚者とも、仕事や職場にまつわる要因が復帰の妨げになっていると考えている回答が多く、本学の内部においても育児休業から復帰する人に対して、職場や仕事からネガティブな影響を受けていることが推測される。また、既婚者の回答からは、実際の育児休業から復帰する場面で保育制度の利用を検討した際や、復帰してから子どもにトラブルが発生した際に、サポート体制の不十分さを実感した経験があることが推測される。

●Japanese Free Comments:

A. 母親自身にまつわる要因

- ・ 復帰してからの仕事と子育ての両立（時間や労力の割振り方）
- ・ 時間の融通が利かなくなる
- ・ 自分自身のモチベーションもスキルも低下する

B. パートナー・家庭にまつわる要因

- ・ 家族の協力・理解の不足
- ・ 近くに親が住んでいないので、手助けを得られない

C. 仕事にまつわる要因

- ・ ブランクによる知識・技術の衰え
- ・ 休職によりキャリアが一時的に中断される
- ・ 休職中の状況などの変化へ適応することができるか

D. 職場にまつわる要因

- ・ 家庭と仕事の両立に対する周囲の理解が得られない
- ・ 休業するとポジションがなくなるなど、復帰が難しくなる
- ・ 職場の環境・雰囲気（周囲の人の視線）

E. 支援制度にまつわる要因

- ・ 家庭と仕事の両立に対する支援体制の不足
- ・ 復帰後の支援体制が整っていない

F. 保育先にまつわる要因

- ・ 子どもの保育先の不足
- ・ 子どもの預け先が決まらない
- ・ 保育園がなかなか空かない

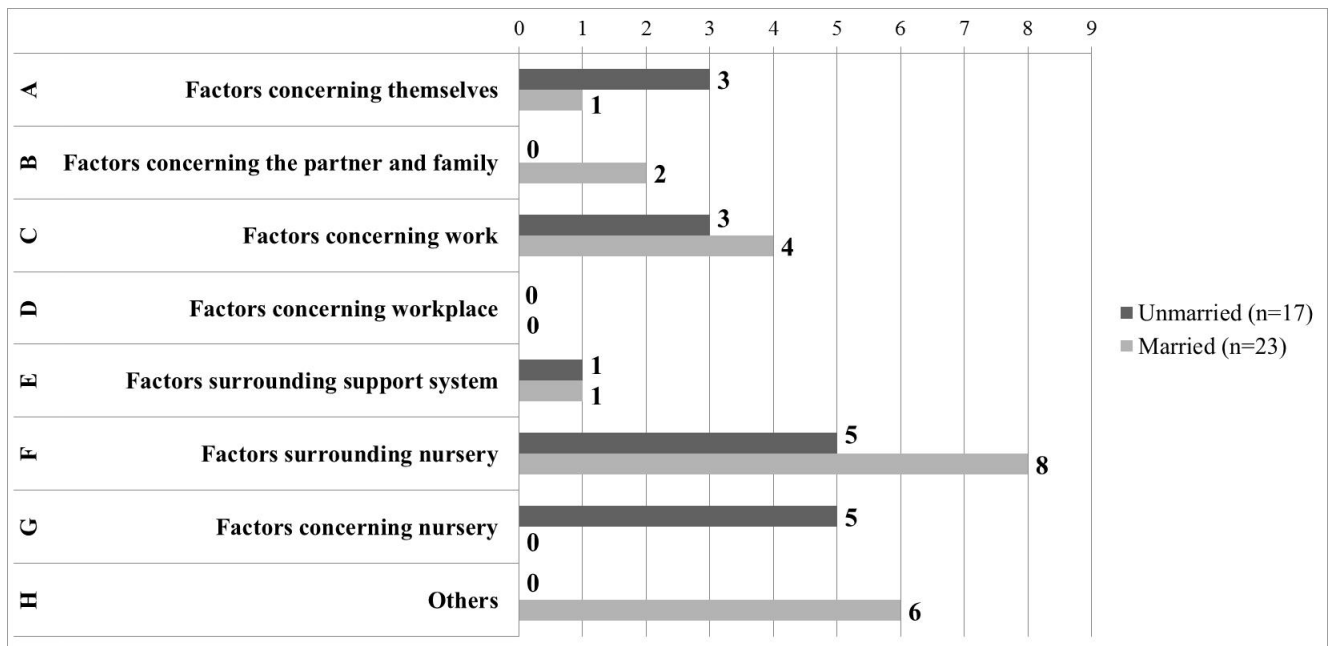
G. 子どもにまつわる要因

- ・ 子どもの急な病気への対応
- ・ 子どものお迎え・学校行事
- ・ 子どもの存在そのもの

H. その他

- ・ 育児によって学ぶことが沢山あるので、ブランクとは考えていない
- ・ 特にない

<For Foreigners>



【Fig 16 The obstacles after returning to work after having child】

34.7% of married and 29.4% of unmarried participants concerns about the daycare for their babies when they get back to the work/study. Both 6% of unmarried and married says that they might not be able to pace with the same speed of work like earlier. And 26% thinks that they did not face any problems after returning to their work.

●English Free Comments:

A. Factors concerning themselves

- Will not be able to catch up with what has been missed during leave.

C. Factors concerning work

- May not be able to continue/restart the same project at the workplace.

F. Factors concerning nursery

- Finding a reliable daycare.
- Always worrying about child and may not be able to concentrate on work.

H. Others

- Did not face any kind of obstacles.

● **Some free comments of participants:**

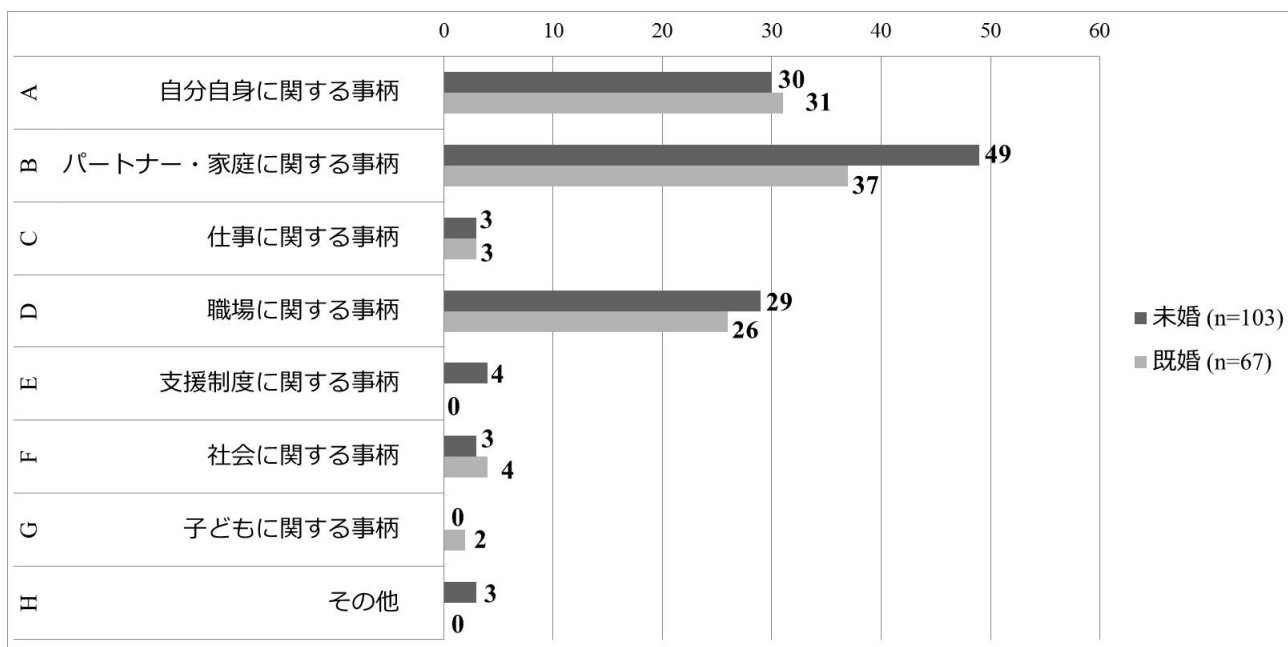
- “The blank time of temporary leave and worried about child’s health, safety and many things.”
- “Being very much attached to family life”.
- “I may not be able to restart/continue the same project at my workplace.”
- “Did not have any obstacles.”
- “I have not experienced such kind of situation. So I do not have idea right now.”



12. Necessary element to balance between family life and work career.

(Unmarried: Q.12 Married: Q.13)

<For Japanese>



【図 15 家庭とキャリアを両立する上で重要であると思われる事柄】

家庭とキャリアを両立させるために重要であると思われる事柄として、未婚者：既婚者とも「パートナー・家庭に関する事柄」（未婚者：47.6%、既婚者：55.2%）、「自分自身に関する事柄」（未婚者：29.1%、既婚者：46.3%）、「職場に関する事柄」（未婚者：28.2%、既婚者：38.8%）の3つの回答が、大きな割合を占めた。

未婚者・既婚者とも、支援体制や社会に関する事柄など外的な要因と比べて、パートナーや家族、そして自分自身の協力や理解などの内的な要因が、家庭とキャリアの両立にはより重要であると考えられていることが明らかになった。

また、その一方で、家庭とキャリアの両立には職場の上司や同僚の理解・協力だけでなく、仕事を続けてキャリアを構築するためには職場環境や支援体制などの重要性も明らかになった。

● Japanese Free Comments:

A. 母親自身に関する事柄

- ・ 自分の仕事と家庭の効率化
- ・ 必ず両立するという本人の強い意思と努力
- ・ 何でも完璧にせず、手抜きも必要
- ・ バランス感覚
- ・ 健康

B. 夫・家庭に関する事柄

- ・ パートナーの理解と協力
- ・ 家事・育児の分担
- ・ 互いの思いやり、尊重する気持ち、感謝
- ・ 親族からの理解とフォロー

C. 仕事に関する事柄

- ・ 仕事する時は集中して仕事をする
- ・ 仕事にのまれない

D. 職場に関する事柄

- ・ 職場の仕事量を配慮した人事
- ・ 職場、職場システムの理解を得る
- ・ 復帰しやすい環境づくり
- ・ 周囲の理解と協力

E. 支援制度に関する事柄

- ・ 支援する体制の確立
- ・ 育児のための環境（施設）の整備

F. 社会に関する事柄

- ・ 社会全体で子どもを育てていくという考え方
- ・ 行政の理解と利用
- ・ 法律的なサポート体制の充実

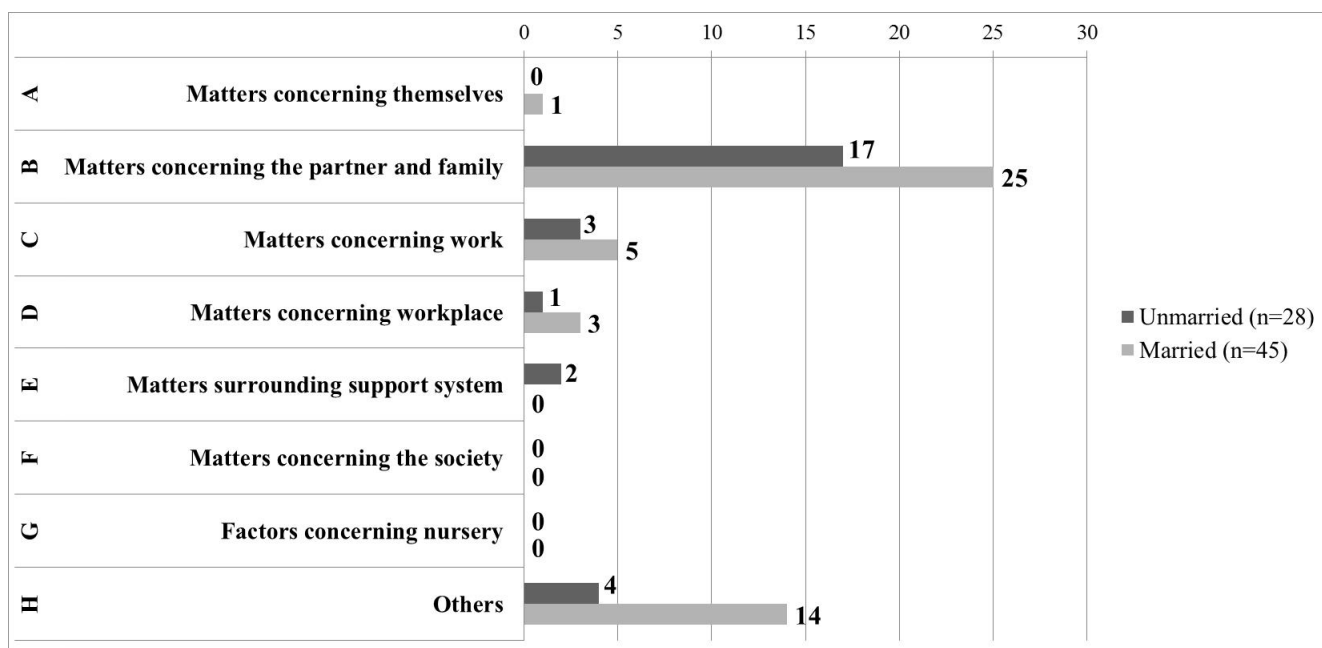
G. 子どもに関する事柄

- ・ 子どもを取り巻く環境を整える

H. その他

- ・ 飲み会を断る勇気

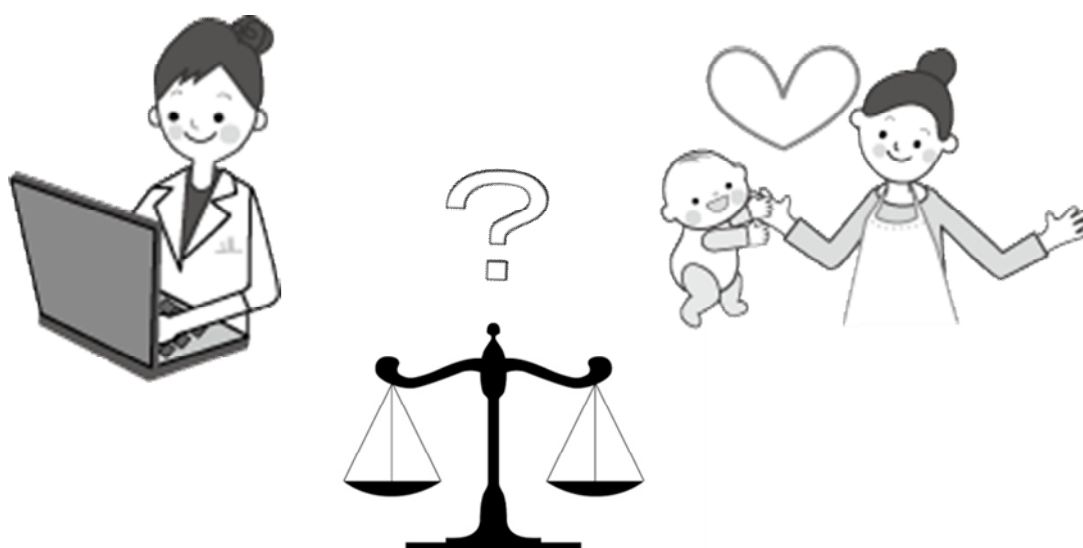
<For Foreigners>



【Fig 18 Necessary element to balance between family life and work career】

About 60.7 % of unmarried and 55.5% of married participants says it is the mutual understanding between the partners that makes the balancing of both family life and work career.

10.7% of unmarried people think that there should be supportive environment and flexible working hours whereas 31.1% of married participants believe that there other factors like time management and financial situation which might play an important role too.



● English Free Comments:

B. Matters concerning the partner and family

- Mutual understanding between the partners.
- Cooperation from other family members.

D. Matters concerning workplace

- Supportive working environment.
- Flexible working hours.

E. Matters surrounding support system

- Good support system for the working mothers from the society.

H. Others

- Time management.
- Financial situation.

● Some free comments of participants:

- “The understanding and cooperation between couples.”
- “Devotion and love from both sides of family and career and vice versa.”
- “Peaceful working environment and family life.”
- “Time and economy.”
- “Compromise.”

Discussion:

今回のアンケート調査全体を通して、未婚者の結婚に対するイメージと、既婚者の回答から見られる実際の状況とで異なる部分がいくつか見られた。例えば、結婚相手に求める条件として、未婚女性では「経済力」、未婚男性では「容姿」が「性格」に次いで突出していたが、既婚者にそれらの傾向は見られなかった。また既婚者の出産した時期は、「フルタイムの仕事についてから」、との回答が最も多かったのに対し、未婚者の子供が欲しい時期については、様々に分散しており、「いつでも」との回答も多くの割合を占めた。

また、将来子供ができた際に育児休業を取得したいと回答する男性が若い世代を中心に見られ、男性の育児休業に対する意識の変化がアンケート結果に認められた。男女ともに育児に参加するという考えが広がっている一方で、どのぐらいの期間育児休業を取りたいかといった、より具体的な質問には「分からない」との回答が多かった。

これらのことから、未婚者が結婚後のライフプランについて具体的にイメージしていない場合が多いのではないかと考えられた。いつかは結婚して何人か子供が欲しい、なるべく仕事を続けたい、と多くの人が思っていることも浮き彫りにされた。そのため、結婚や出産の時期、出産後の働き方について、もっと明確にイメージできるような環境作りや個人の意識が必要と思われる。また今回の調査では、回答した既婚者がほぼフルタイムの仕事に就いている、という点では結果にバイアスがかかっていることが考えられる。

Recommendations:

今回のアンケートと合わせて、家庭とキャリアを両立している研究者に対してのインタビューを行い、両立についての悩みや、仕事とプライベートのバランスの話などを聞く機会を設けた。インタビューの実施により、既婚者、特に将来同業となる経験者の悩みやアドバイスを、未婚者・学生が聞ける機会を多く作ることが必要なのではないかと思われた。

また、職業を考える際に、職業適性だけでなく自分のライフプランにあった職場環境、雇用形態であるかを考慮するべきである。大学や研究所の支援体制を拡充すると同時に、職場環境についての情報を発信し、個々にあった職場選びを支援することも大切だと考えられた。

Recommendations:

For the students in TMDU:

1. In Japan the rental fee for private apartments / houses are very expensive. If our university provides the dormitory for more than one year it will be a great support for us.
2. Most of the self-financed international students need to do part time job for their expenses. It would lessen the financial burden of the students if TMDU can make the application procedures much easier for applying different scholarships.
3. Now kindergarten is one of the big problems for working / studying mothers. The Waku Waku hoikuen is too expensive to afford. If it is made cheaper working mothers can stay and work for more in the university.
4. The working environment should be flexible for mothers. The other department staffs should be understandable and cooperative.
5. For many international students the language (Japanese) is the biggest problem in their study and daily life. It is most important to have a proper communicating channel during research work.
6. There are many Muslim students in TMDU. We hope if our university can arrange hallal food section.
7. The emails sent by university may carry much important information. But many international students do not understand and miss out that information. So it would be convenient for international students if those emails are sent in English.



研究者夫婦へインタビュー



～家庭とキャリアの両立について、これまでとこれから～

A 男さん

B 子さんの夫

今年より以前からポスドクとして勤めていた私立大学の研究室の助教として勤務している。

B 子さん

A 男さんの妻

A 男さんと同じ研究室にポスドクとして勤務している。

お二人とも、同じ私立大学で博士課程修了後、勤務先の研究室のポスドクとして勤務している。昨年ご結婚され、お子さんはまだいないが欲しいとは考えている。

結婚前～現在の状況

—結婚を決めたきっかけは何でしたか？

B 子> 女性として30歳までに結婚したいというのがありました。

それと、お互いが今後も研究者として働いていくというのも明確になってきたので、結婚後のライフプランも考えられると思ったから。

A 男> 結婚したのはお互いがポスドクのときだったから、時期やきっかけにはあまりこだわっていません。

—お互い研究者として働いておられますが、配偶者が同業であるメリット・デメリットなどありますか？

メリット：お互いの忙しい時期がわかること。

仕事に対して理解してもらえること。

デメリット：学会前などはお互い忙しくなり、家事などの分担がどうしてもうまくいなくなる。

今後、勤務先が変わったときにお互い別の大学や研究所などで働くことになると一緒に住んでいられなくなる。

B 子> お互いが忙しかったり、辛い状況だったりするのを理解できるから、たとえば家事の分担が完璧にこなせなくても問題だとは思いません。

理解している分、そこはお互い助け合っていければと思います。

—「忙しい時期が重なると家事の分担が難しい」とのことですが、日頃、家事はどのように分担していますか？

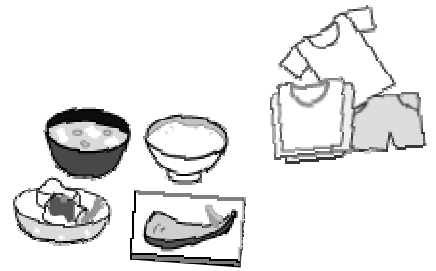
A 男> 僕は、昼ごはんのためのお弁当作り担当です。

B 子> 夜ごはんは私が作っています。

掃除・洗濯などは、気づくと私がやっていることが多いですが、頼めばA男さんはやってくれます。

どうしても忙しいときなどはお互い相手に無理をさせないようにしていて、お弁当を買ったり、夜なら外食したりしています。

普段と違うことをすることで気分転換にもなります。



—結婚前後でご自身の中のワーク・ライフ・バランスに変化はありましたか？

B 子> 私は変化を感じていません。結婚前も今も、仕事：プライベート＝7：3ぐらい。でもA男さんは変わったと思います。

A 男> 変わりました。結婚前は、仕事：プライベート＝9.5：0.5ぐらいだった。結婚してからは8：2ぐらいになるよう、プライベートの比率を増やしました。

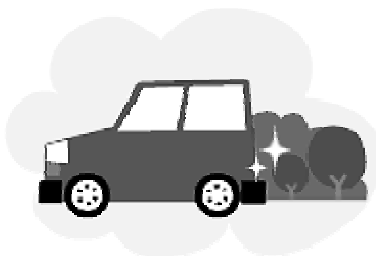
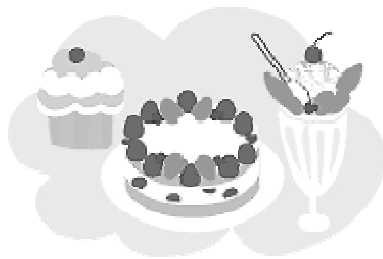
—結婚してからプライベートの時間が増えたとのことですが、具体的にはどのように変化しましたか？土日の過ごし方などを教えてください。

A 男> 結婚前は土日でも研究室に行っていました。結婚してからは土日に二人で出かけたり、B子さんの両親の家が近いこともあって遊びに行くようになりました。

子供が生まれるとなかなか二人で出かけられなくなると思うので、こういった時間を大切にしたいです。

プライベートの時間が増えたからといって仕事のクオリティが落ちたとは感じていません。

むしろ、土日に家族と過ごしてリフレッシュすることで平日は仕事に集中することが出来ます。



これからの家庭生活に向けて

—B子さんにお聞きします。お子さんが生まれてからも仕事は続けていきたいと考えていますか？

B子> 続けていきたいです。A男さんに頼りきりにならずに、自分でも稼いでいたいと思います。

—働くなら研究者としてフルタイムで働きたいですか？テクニシャンとして非常勤で働いたり、あるいは研究とは全く関係のないところで働くということは考えていますか？

B子> 出来ることなら、研究者として働き続けたいです。状況によってはテクニシャンで非常勤になってしまっても仕方ないとは思いますが、現時点では研究と関係ないところで働くのは考えられないです。

—お子さんがいても働き続けたいとのことですが、育児休業についてはどれくらい取りたいと考えていますか？

B子> 理想としては1年ぐらい取りたいですが、現実を考えると半年程度になってしまうと思います。そのときになってみないとわからないですね。

A男> 自分が育児休業を取るとプロジェクトが回らなくなってしまうから、まとまった期間の休業は取れないと思います。

けれど、子供が生まれたら、土日は完全に休みにしたり、平日も午後早くに帰ったりするなどしてあげたいとは思いますが、現実としてはそれができる環境ではないでしょうね。どの世界にいてもそうでしょうが、研究の世界でも定時なんてあつてないようなものですからね。

B子さんの働き続けたいという気持ちはわかりますが、サービス残業が当たり前のこのハードワークと、子育てとを両立するためには制度が不足していると思います。

職場の理解も不足しているというより、家庭との“両立”という考え自体が浸透していないですね。一般的に、「日本人は働きすぎ」と、よく言われますが、この状態で家庭を支えるには、まだまだ厳しいように思います。



学生に向けて

—お二人のように研究者として働くことを希望する学生に対して、家庭とキャリアを両立していくうえで心に留めておいたほうがいいことはありますか？

B 子> 理想と現実はかなり違います。実験が楽しい！っていう気持ちだけだと辛いでしょうね。

論文を読んで勉強し続けないといけないし、アイデアが無いといけないし、何より論文を出し続けないといけない。

そういったことまで考えて進路を決めた方がいいですね。

さっき A 男さんが言ったように、アカデミックは個人のプライベートに関するサポートがかなり不十分だから、その点は企業で働く方が有利だと思います。

ですので、実は、私もできれば企業で研究職として働けたらいいなと考えています。

確かに大学の環境でずっとやっていけるかと思うと不安です。

A 男> ポスドクから助教になって感じることは事務的なことが圧倒的に増えましたね。

昼間に会議が入って思うように実験が進まないことも増えました。

肉体的にも精神的にもタフじゃないとこの仕事はやっていけないですね。

さっきも言いましたが、サービス残業は当たり前。そういった風潮を拭うのは難しいでしょう。

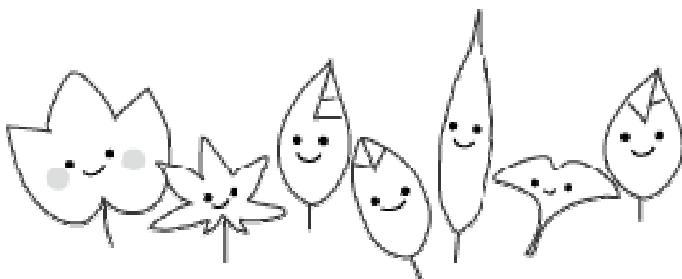
流されすぎずに自分のプライベートの時間をしっかり確保することが大切です。

そのためにも自分のライフプランに対する主張はしっかりしていくことが必要だと感じています。

こういった“家庭とキャリアの両立”について調べ、そこで挙がってきた意見などをしっかりと伝えていくことは非常に意義のあることだと思います。働き始めたり、キャリアアップしていったり、結婚したりで、立場が変わったことで、出来ることと出来ないことが出てくるので、その辺りを感じ取ってくれれば嬉しいです。

こうした調査が形になってより多くの人目に触れるようになり、“家庭とキャリアを両立”することがごく自然なことだということが浸透していくといいですね。

—お忙しい中、ありがとうございました。



(インタビュー担当者)

修士1年 分子神経科学分野 杉山 香織

A Perspective of a Scientist from Mongolia



Dr. Shagdarsuren
Tserendulam

Mrs. Shagdarsuren Tserendulam is from Mongolia and a student of Public Health Leaders course in the International Health Department of TMDU.

Besides being a successful scientist, she is married and has two children. Below here, she shares with us her experiences and the way she balances her work and family.

Part I: Study life at TMDU

1. What was your subject of study at TMDU?

Evaluation of Healthy City Program.

2. What were the good things and difficulties you found at TMDU?

Good things: excellent, supportive teachers and staffs, extensive and complex training programs, learning from colleagues who are specialist and experts in public health from different countries.

Difficulties: Japanese language barrier and cost of nursery school. As for foreign student, chance that children enter the public nursery school is so difficult, because of city hall counts private situation of parents of child by point. For example: 1/ mother, who is student takes a point lower than working mother. 2/ If Japanese communication is not good, the public nursery school doesn't take it. In the result, my daughter goes to the private nursery school and the cost is expensive.

3. What did you achieve from TMDU?

I have kind colleagues and I am achieving to study a lot of knowledge of my research field.

Part II: Career and achievement after graduation from TMDU

1. Please tell us about your job history and achievement after graduation from TMDU.

Now, I am just a second year student in PhD program in TMDU.

- 2004-2005: Technical assistant of GIZ in Mongolia
- 2005-2006: Director of Center for Children in Baganuur district of Capital city Ulaanbaatar, Mongolia
- 2006-2012: Executive director of Mongolian Association of Urban Centers, Mongolia
- Oct2012-at present: Graduate student of TMDU and director of the Healthy City Program Strengthening Center NGO in Mongolia.

2. Please tell us about your current job and Institute.

I am still studying at TMDU.

3. Why are you interested in this job?

While I worked in the Mongolian Association for Urban Centers, I became interested in Healthy city development and their research activity. According to own interest, I am studying and working in the Healthy Cities research and activity.

Part III: Balance between work and family

1. What is the time schedule for your family?

We have two daughters. Elder daughter stayed in the home country. The younger daughter is living with us. Every day, I and my daughter go to Waku Waku nursery school of our university. While she is in Waku Waku nursery school from 9-18h, I can study.

2. How do you balance between your work and family?

Luckily, I have kind mother and married big hearted man. They provide me the possibility to spend more time to work and study activities. Their support is the key of success in work and study.

3. How do you manage time to stay with and to educate your children?

Our daughters have self-sustainable. They try to learn anything related education themselves. I spend leisure time with family.

4. What would you like to do for your children?

-Our duties are bringing up children healthy, patriot, well educated who has important role in home country's development. For them, we are achieving.

-We like to travel and discover new places, things together and buy books for daughters.

Part IV: View point about work and life

1. How do you keep your motivation for your work?

I like new things. I go to study like I am living newly everyday. This is my motivation.

2. What are the keys of success for your academic life?

Constant activeness, initiative, challenges to learn.

3. What are the keys of success for your personal life?

My personal life success key in Japan is a family support and help. Husband works in Japan. It gives opportunity to live comfortable in a highly developed country which is expensive in living cost. Also younger daughter goes to comfortable nursery school with kind teachers and staffs. Elder daughter is bringing up under the care of mother in the home country.

4. What is your plan for the future?

Working home country's development is my life principle and in near the future I will make the scientific research of the Healthy Cities Development under the administration of beloved teachers of the International Health Department in TMDU.

5. What is the working environment for women to be active researchers, scientists or lecturers?

As for me, it is the most important that the university locates together or near nursery school, this gives to be active in research and studying.

Part V: Recommendation

1. What is your recommendation for young generation?

I am only a second grade student of the PhD course. I am living together with my family in here, so I have advantages that like I am living and studying at home. In my opinion, other students may think about their families every members' interest and opportunities and then decide whether they will live with their family or not in Japan.

Also, I am very pleased with activities of Waku Waku nursery school of TMDU. However, it is not easy to pay 70,200 yen fee to nursery school for every month as for the foreign student family. On behalf of foreign women



Mrs. Tserendulam and her family

students, I have a request discount of nursery school payment to the administration of TMDU via transfer Women Support Section. Please give a definite reply about the discount of nursery school payment for foreign women students is possible or not.

In addition, I wish all students learning in TMDU with great achievements in own research field and share contribution in the development of their mother countries.

Thank you very much for sharing your experiences with us.

Interview taken by Jamal Ripa, 2nd year PhD student

Balancing Study and Family Life in Japan



Profiles of the couples

Wife: Mikriban Turahun
Nationality: Uyghur
Graduation: Northwest University of China
Current status: PhD 4th year student in the Department of critical medical care in TMDU

Husband: Akbar Alim
Nationality: Uyghur
Graduation: University of Finance and Economics, Xinjiang China
Current status: PhD 4th year student in a law school, Yokohama Toin University

This couple works every weekday around 9-11 hours per day. They have 3 years old son and 5 months old daughter now. The wife is busy in both studying and taking care of the children. Husband is busy in study and doing part time job 3-4 times a week. Husband also supports his wife in doing some household work and shopping. They help each other however they feel balancing study, work and taking care of children is very difficult.



Weekdays Activity

6:00AM	Wake up and breakfast
7:00-8:00 AM	Prepare the kids to send the kindergarten
8:15-8:30 AM	Start from home to go university
9:00-9:30AM	Start to work
6:30PM	Go to kindergarten to pick up kids
7:00-9:00PM	Reach home, prepare the dinner and look after the kids
9:00-11:00PM	Prepare for the next day and study
11~11:30PM	Go to sleep

Weekends Activity

Saturday and Sunday

Wife does the laundry, cooking, cleaning and taking care of kids.

Husband goes to his part time job and comes back in the afternoon, then they go around with kids and shopping together.

Do you feel tired with your children?

Do you know about TMDU Waku Waku Hoikuen?

Wife: We are busy with the kids but happy. They give us many fresh and cute face. Even though we are tired, as we see their face that negative feeling all disappear. We know about the Waku Waku hoikuen, if it is cheaper it would bring more convenience, especially to students.

Husband: I love my kids and family. I am willing to help my wife to look after our kids, but I have to do part time job to help both tuition and cost of life. We know the hoikuen, but it is too expensive for us to apply.

Why did you choose to study at TMDU?

In 2009 I came to Japan as a research student at Tokyo Medical and Dental University, because TMDU is one of the famous national medical university in Japan. I was introduced the university by my friends who graduated from TMDU in 2010.

Do you feel balancing work and life is difficult?

It is really difficult to make balance between the study and work, life is short and time is fleeting, for me the important thing is the time, every day I feel that my time is not enough to do. For my family while I have to be a good mom for two kids, to be a good daughter for my parents, to be a good wife for my husband, At school I must keep my mind sharp and fresh, in this way I can improve my attitude, even if I am tired every day, when I see what I got I will be more pleased. In my opinion, we cannot do all the best at one time, but we can manage and balance the time for them, so that is why I keep my schedule note in my pocket every day.

What did you achieve from TMDU?

During my study in TMDU I want to thank my professor Dr. Mitaka. She encourages me a lot how to keep on studying and family. Now my article was published and I can improve a lot both in clinical and research.

What kind of supports do you expect from this university?

First of all, about the dormitory. As you know in Japan the rental fee is too expensive. If university support us the dormitory fee more than a year it will be fine. And we want more convenience for the application of the scholarship.

What is your recommendation for younger graduate students?

For my younger friends everyday of your life is a leaf of your history.

What is your future plan?

To be a good mother while to be a good medical doctor is my dream. After I graduate I plan to work in my hometown.



Thanks the interviewees for your valuable time!

Interviewed by: Zulpiye Habibulla

第2章

大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビュー

【企画メンバー】

李 娜（リーダー）	（医歯学総合研究科・包括病理学分野 博士課程 4年）
鈴木 陽子（副リーダー）	（医歯学総合研究科・心療・緩和医療学分野 博士課程 1年）
小野 恵子	（医歯学総合研究科・精神行動医科学分野 修士課程 1年）
八田 愛理奈	（難治疾患研究所・分子薬理学分野 修士課程 1年）
保科 ゆい子	（保健衛生学研究科・看護システムマネジメント学分野 修士課程 1年）

【目的】

本事業では、女子大学院生が卒業後にどのようなキャリアを歩んでいるかの現状を知り、それぞれのキャリアの歩みの内容を比較することでキャリアパスの選択肢を学び、今後の女子大学院生のキャリアデザインに役立てることを目的とする。具体的には修士課程修了者・博士課程修了者に対し、現在の仕事に就いたきっかけ、将来の目標、仕事をして行く上での課題や困難への克服法等についてインタビューを行う。

【方法】

- ① 各グループメンバーは、自分が興味のある設問内容をまとめておく。
- ② ①を参考にしてインタビュー質問の雛形を作り、メンバー間で共有する。卒業生や知り合い等、インタビューの候補者を探し、インタビューが可能であるかを確認する。
- ③ 各グループメンバーは 2 名程度以上のインタビューを担当し、趣意書の承諾を得られた方から日程調整等を行い、インタビューを実施する。インタビュー終了後、インタビュー原稿を作成する。
- ④ 原稿の内容をインタビュー相手に校正して頂き、最終同意を得られたあと、事業報告書に掲載する。インタビュー相手には、顔写真・実名・所属先を公開しても良いか、また Web 上の掲載も可能であるかも確認しておく。
- ⑤ インタビューを行い、興味の深い内容が聞けた場合はインタビュー相手を講師として招き、セミナー形式へ発展する可能性も検討する。

【タイムスケジュール】

7 月末まで	企画書を作成し、オープンキャンパスに展示するポスターを作成する。 インタビュー候補者を卒業生や自身のネットワーク等から探し、連絡を開始する。 インタビュー実施に関する趣意書を作成し、インタビュー候補者から同意を得る。
8 月—10 月	インタビューの実施及び原稿の作成、インタビュー相手からの原稿校正、報告書の編集作業。
11 月	事業報告書の最終校正を行い、報告書の形式にまとめる。

【予想される成果】

修士、博士課程をそれぞれ修了した方々と直接対話することにより、卒業後のさまざまなキャリアパスを知ることができ、個別のキャリアデザインの取り組み方や考え方を知り、身近な具体例として参考にすることができる。更にインタビューを行う過程全体を通して、インタビュー相手等とのネットワークを構築することができ、今後の研究や情報交換等に活かして行けることが期待される。

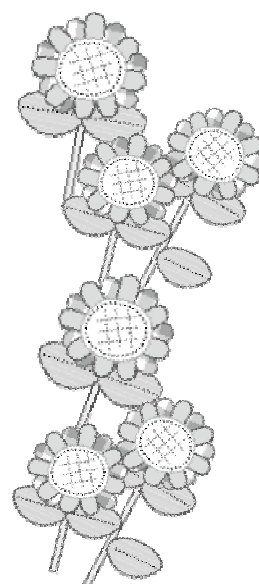
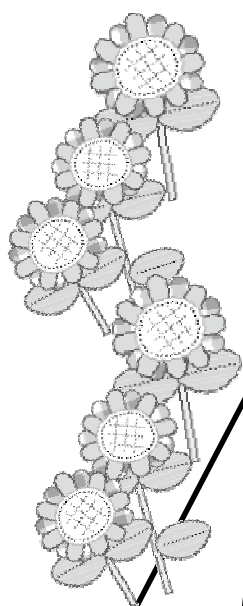
本事業に参加したきっかけ

看護の分野においては、大学院への進学はまだまだ一般的ではなく、卒後のキャリアの選択肢がどのようなものか、本事業を通じて考えたいと思います。また今後大学院進学を考える学部卒業生の方へ、何か有意義なメッセージを送りたいと考えています。

保科 ゆい子

大学院に進学する際に、先生に院を修了した後のキャリアの選択肢として企業もあると言われ、企業の研究職について知りたいと思いました。キャリアデザインについて話を聞いて考えてみたいと思い、本事業に参加しました。

鈴木 陽子

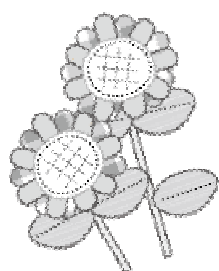


修士課程1年で、自分の進路を考えるに当たり、同じようなバックグラウンドの人とコミュニケーションを取り、意見を交換したくて参加しました！人脈や自分の視野を広げたいと思います。

八田 愛理奈

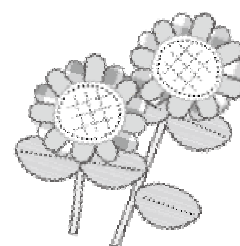
就職活動の時から、医学部大学院の先輩、特に留学生の先輩が少ないことに気付きました。この事業を通してネットワークを開き、先輩たちのキャリアデザインを参考にしたいです。

李 娜



研究者を目指すキャリアパスについて、いろいろな視点から見てみたいと思い本事業に参加しました。インタビューを通して考え方を学び、今後の選択をしたいと思っています。

小野 恵子



大学院修了後の女性のキャリアデザインについてのインタビューグループ スケジュール

	グループミーティング	全体ミーティング・イベント
6月		<p>キックオフミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業参加者の顔合わせ ・事業の説明、スケジュール ・企画内容のディスカッションなど ・後日掲示板でのやり取りにて2つのグループに分かれた
7月	<p>第1回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー、サブリーダーの選定 ・どのようなテーマで取り組みたいかディスカッションを行い、インタビュー形式で行うことを決めた ・インタビュー対象の候補者案の検討を次回への課題とした ・オープンキャンパス用のポスター及び企画書作成の流れを確認し、次回で両案の検討が行えるよう作成を進めることとした <p>第2回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス用のポスター、企画書を検討し、期日までに完成させ印刷することとした ・インタビュー対象の候補者案を検討し、各自で質問内容を作成することとした 	
8月	<p>第3回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で考えた質問内容をメンバーで検討した ・共通の質問内容を決めることにした ・インタビュー候補者への依頼の流れを確認し、趣意書の作成を次回までの課題とした <p>第4回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書及び趣意書の完成 ・引き続きインタビュー案の検討 <p>第5回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の質問項目を完成させ、テンプレートを作成した 	<p>オープンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の内、各自担当の時間帯に女性支援部のパネル設置場所に立ち会い、ポスター展示や若手研究者キャリアデザイン事業の紹介などを行った

	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー候補者への打診を開始した <p style="text-align: center;">第6回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別のインタビュー案の検討 ・インタビュー候補者からの承諾が取れ次第、各自日程を決めインタビューを行っていくこととした 	
9月	<p style="text-align: center;">第7回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自のインタビュー案の質問を検討した ・インタビュー方法や手順について確認した ・各自の進捗状況についての報告 <p style="text-align: center;">第8回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー報告と改善点について話し合った ・1日のタイムスケジュールを円グラフにすることとした ・各自の進捗状況についての報告 <p style="text-align: center;">第9回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー報告と改善点について話し合い、わかりにくい部分は質問を追加した ・略歴に学位を記載することとした ・各自インタビューのキャッチフレーズを載せることとした 	
10月	<p style="text-align: center;">第10回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー報告と改善点について話し合った ・追加の質問内容について確認し、子どもがいる方の場合は、それぞれ中学生/高校生などの表記を追加した ・円グラフの様式を決定した <p style="text-align: center;">第11回グループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の各ページの担当者を決定した ・インタビュー報告を行った ・インタビューページの様式を決めた 	<p style="text-align: center;">報告書作成説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成にあたっての要点やスケジュールについて説明を受けた ・表紙デザイン担当者、表紙の色を決定した
11月	報告書作成	

インタビューの目次

修士課程卒業

1. Tさん 修士を卒業して、教員として働く
～ライフイベントと両立させながら～
2. 飯村 祥子（いいむらしょうこ）さん 修士在学中の講義で感銘を受けた道へ！
～厚生労働省の技官として働く～
3. Iさん 修士課程を卒業して、大学の研究員として働く
～企業を経て大学の研究室で働く～

博士課程卒業

1. 伊藤 亨子（いとうゆきこ）さん 基礎研究に携わるということ
～企業・研究所・大学を経て～
2. 大島 志織（おおしま しおり）さん 工学分野のアプローチから新しい解決策を
～企業の医療研究・開発で活躍～
3. 松山 科子（まつやま しなこ）さん 社会人大学院での研究・技術を
新しいライフスタイルビジネスへ
4. Hさん 博士課程を卒業して～研究者として日本で働く方の場合～
5. 李 明順（り めいじゅん）さん 博士課程を卒業して～企業へ就職する方の場合～

修士を卒業して、教員として働く ～ライフイベントと両立させながら～

Tさん

～ご略歴～

A 大学看護学科卒業

A 大学附属病院 看護師勤務

B 病院 看護師勤務

大学看護学科等の病院実習指導教員

A 大学教務補佐員、非常勤講師、専攻生

看護系学会等社会保険連合

A 大学特任助教



●大学院修士課程の事について

・修士課程に入学する前はどの様な仕事についていらっしゃいましたか？どのくらいの期間働いていましたか？

大学卒業後、病院看護師として4年間勤務していました。

・修士に入学しようと考えたのはいつごろでしたか？

看護師として働いて4年目の頃でした。

・修士でどの様なことをしたいと考えていたのですか？

学位を取得する必要性が先立っていたので、研究テーマは入学してから考えようと思っていました。

・修士に入学するきっかけとなった出来事や、きっかけを与えてくれた人がいたら教えて下さい。

親戚の知人が実家近くの短期大学で教員をしており、その方からそこで教員として働かないかと声がかかりました。その短期大学は4年制大学へ昇格することが決定していたこと、まだ地方には大学院がほとんどなかったことから「東京にいるうちに修士号を取った方が良い」とすすめられ、東京で大学院に進学することを決めました。

・修士へ入学を決めた時の職場の同僚や友人などの反応はどの様なものでしたか？

まだ看護系大学が少ない時代だったため、さらに進学ということ自体が上司や同僚にとっては未知のものだったかもしれません。次の道へ向けての退職も快く送り出してくれました。

●大学院在学中及び修了後の事について教えてください。

・修士ではどのような研究をされましたか？そのような研究がしたいと思った経緯も教えてください。

介入研究で縦断的なアプローチをしました。在学中に非常勤で働いていた施設をフィールドに、そこで始まった健診受診者全員を対象とした面接（保健指導）の導入前後の変化を3年間にわたって縦断的に調査しました。このような研究をしようと思ったのは、面接の導入に携わることにより、その効果や意味があるのかを知りたくなかったのがきっかけです。結果は、面接後翌年に健診受診するまでの期間、生活習慣を変えるに至らなくとも（変えるべき点を）意識した集団でも数値の改善がみられました。

・修士に進学するメリットやデメリットがあれば教えてください。

メリット：視野が広がる。客観的、科学的なものの見方、考え方が学べる。自分の場合、統計解析や論文作成などでパソコンを使えるようになった。

デメリット：実家暮らしではない場合、金銭面の工面が大変。

・修士在学中に苦労したことがあれば教えてください。

一番は経済面です。非常勤で働きながら奨学金を借りて生活しました。仕事をすると必然的に勉強に割く時間が無くなるので、次のゼミがあつという間で、勉学との両立に苦労しました。

・修士修了直後についた仕事は、どの様に選択しましたか？

当初、修了後は地元に戻り教員をする予定でしたが、在学中に結婚が決まり帰れないことになりました。また臨床が恋しくなり、修士に入学する前に働いていた病院へ戻りました。当時は、引き続き博士課程へ進むことは考えませんでした。

・修士卒業後からこれまでどのような仕事をしてきましたか？

出産を機に病院を辞めてからは、育児の傍ら期間限定の実習補助や非常勤で医療系の事務仕事をしてきました。常勤としての勤務は出産後から今までありません。PTAなど地域での役割もしてきました。

●今の仕事についての経緯について教えてください。

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？

今は、非常勤で大学教員をしています。前任者が退職するにあたりその後任を依頼されました。旧知の仲だったため、直接声がかかりました。

・どのようにして現在のお仕事への就職情報を得ましたか？情報を得た時には知人や周囲の方からの紹介があったかどうかもお聞かせください。

前任者からの紹介でした。

・就職情報を得たのはいつごろでしたか？

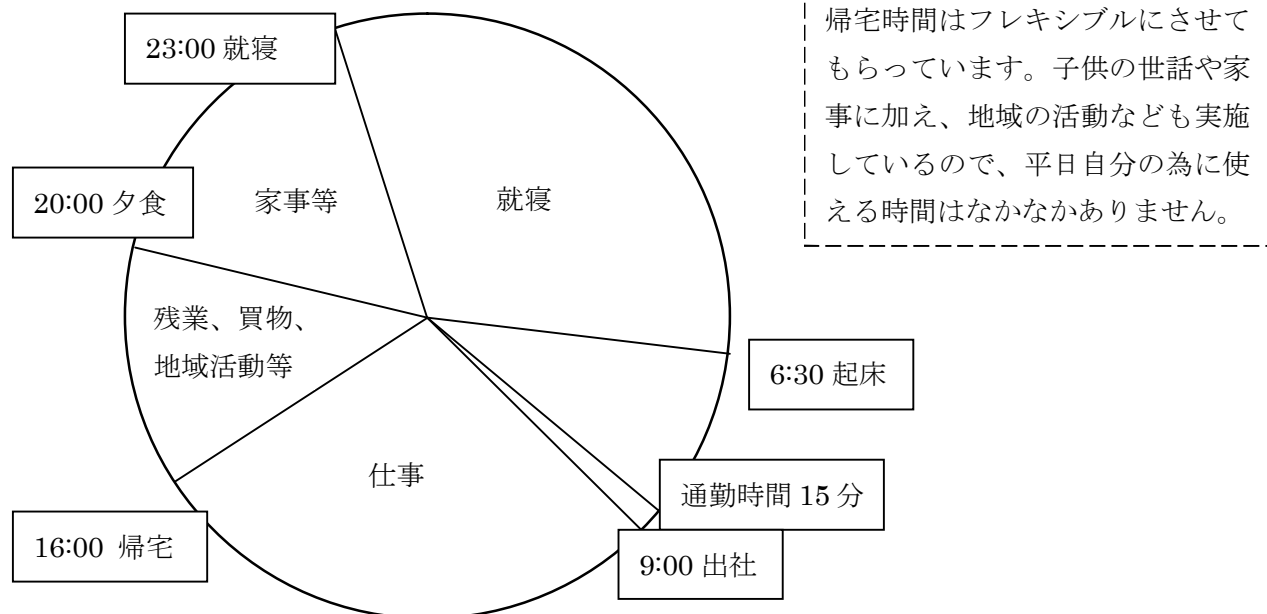
前任者の退職予定が決まった頃でした。

・これから就職活動を始める学生にアドバイスや、資格の取得といった具体的に実践しておいた方がよいことがありましたら教えてください。

女性の場合は特に、ライフイベントに左右される部分が大きいため、学位など時間をかけて取得するものは、取れる時に取っておいた方がよいように思います。

●現在の事について

・仕事をしている日のタイムスケジュールを教えてください。



・休日のタイムスケジュールを教えてください。

土曜、日曜については、子供たちのスポーツ活動をサポートしています。

・一週間の勤務日、休日について教えてください。

平日出勤、土日休みが基本ですが、持ち帰りですることが多々あります。

・取得した修士号や研究した内容はどの様に活かしていますか？もし活かしていないとしたらどのような仕事であれば自分の経験が活かせると思いますか？

修士で研究した内容を活かすというよりは、研究手法を学び実践する中で身についた evidence based という考え方が、さまざまな部分で生きていると感じます。また修士号が無ければ、今の職業につくことは難しかったと思われます。

・現在の自分は修士課程入学前あるいは修了後に描いていたキャリアと一致していますか？相違があるとしたらどのような点が相違していますか？

当時は看護系大学の数も少なく、身近にロールモデルとなる人も少なかったため、どのようなキャリアを歩むことができるのかということ自体、描くことが難しくもありました。

●未来の事について

・これからの目標は何ですか？仕事に関するもの、プライベートに関するもの、どちらも教えてください。

いずれ博士号を取りたいとは考えていますが、ワーク・ライフ・バランスを考慮して決めようと思います。また、研究の醍醐味とは、客観的な根拠の蓄積によって普遍的なことを見出し、人を助けたり、何かの役に立ったりできるところではないかと感じています。これからの抱負としては、プライベートでは子供達と一緒に自分もスポーツを楽しむこと、仕事では研究のための研究に陥らずに些細なことでも何か人のためにつながるようなことをしていきたいと考えています。

●日本の看護系大学院課程について、良い点や改善すべき点など、主観的にでも客観的にでも、どのような事でも良いので意見を聞かせてください。

看護系大学が全国的に普及し、大学編入への門戸も広がり、多くの看護職が学ぶことができる機会が増えていることはとても良いことであると感じています。看護の基礎教育は教育機関が一様でないが故の難しさもあるかもしれませんが、大学や大学院において多様な背景の学生が多く学びを得られることを願っています。

インタビュー担当者：保科ゆい子

修士在学中の講義で感銘を受けた道へ！

～厚生労働省の技官として働く～

飯村 祥子（いいむら しょうこ）さん

～ご略歴～

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻

虎の門病院看護師

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科総合保健看護学専攻

現在は厚生労働省 看護系技官として勤務



●大学院修士課程の事について

・修士課程に入学する前はどのような仕事についていらっしゃいましたか？どのくらいの期間働いていましたか？

虎の門病院の分院で2年間、本院で2年間、看護師として働きました。

・修士に入学しようと考えたのはいつごろでしたか？またそのきっかけとなった出来事やきっかけを与えてくれた人がいたら教えてください。

看護師として働き始めて2年目か3年目の頃だったと思います。看護師として内科や外科、幅広い患者の看護を経験し、看護師としてのファーストステップは一通り経験したように感じ、次のステップへ踏み出してみようと思った事と、大学時代の同級生が大学院に入学したことも修士への進学を考えるきっかけになったように思います。

・修士でどのようなことをしたいと考えていたのですか？

看護師がどうしたら笑顔で働ける職場をつくることができるのか？という事を考えたいと思っていました。

・修士へ入学を決めた時の職場の同僚や友人などの反応はどのようなものでしたか？

虎の門病院には、専門看護師の方がいましたし、大学院を卒業した後に戻ってくる人もいましたので、周囲の人にとって大学院へ進学することはそれほど特異な事ではなかったように思います。ただ、進学のための休職制度はありませんでしたし、卒業後どうするかという様な事は個人に任せるといったような感じだったと思います。

●大学院在学中及び修了後の事について教えてください。

・修士ではどのような研究をされましたか？そのような研究がしたいと思った経緯も教えてください。

研究内容は、「一般病棟の看護師が行うチームカンファレンスが活性化し看護実践につながるプロセス」です。

看護師は、24時間交代制勤務で看護をしています。チームで継続的に患者を看護しなくてはいけない、という思いがあり、どうしたらチームとして質の高い看護を維持できるのかという事を考えたいと思い、看護師が集まって患者の事を話し合うカンファレンスに焦点を当てて研究をすることにしました。

・修士に進学するメリットやデメリットがあれば教えてください。

メリット：研究者としての視点を得たというだけでなく、看護師として成長した、と思えたことです。病院で働くだけでは決して知り合えない人と出会う事ができ、人生の選択肢が広がったと思います。

デメリット：お金がなくなったことです。しかしお金がないからという理由で何かをあきらめる必要はなく、授業料免除制度や、奨学金など、何とかする手段はあると感じました。あとは、大学院生は暇だと思われることが多かったです。

・修士在学中に苦労したことがあれば教えてください。

授業や読む論文は大半が英語であったため、英語には本当に苦労しました。

・修士修了直後について仕事は、どの様に選択しましたか？

修士の授業の中で、厚生労働省看護系技官の方の講義を受け、現場で先進的に取り組んでいることをキャッチし、制度として確立させていくことに感銘を受けました。なかなか合格できないと聞いていたので、「受かったらいいな」くらいの気持ちで受けてみたところ、合格できたので就職することになりました。

●今の仕事に就いた経緯について教えてください。

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？就職情報を得たのはいつごろでしたか？

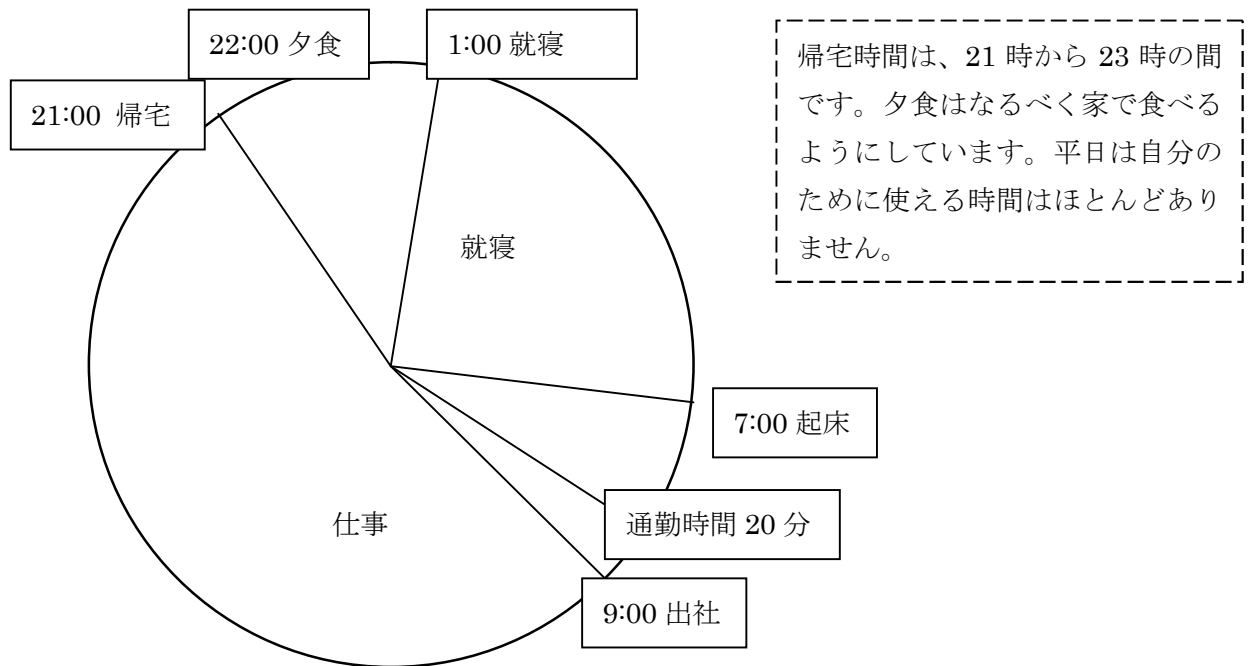
10月に応募書類を提出し、11月に試験、12月に合格発表だったと思います。

・これから就職活動を始める学生にアドバイスや、資格の取得といった具体的に実践しておいた方がよいことがありましたら教えてください。

現場で看護師として働くのか、それともそれ以外の道へ行くのかという選択がまず一つあるかなと思います。もし研究職になるというのなら、博士へ進学した方がいいでしょうし、現場に戻りたいという思いがあるなら、現場と長期間離れるというのはデメリットになる可能性があります。自分が何をしたいのか、ということを見つめてみるのが大事なのではないでしょうか。

●今の仕事について教えてください。

- ・仕事をしている日のタイムスケジュールを教えてください。



- ・休日のタイムスケジュールを教えてください。

遊びに出かけたり、家事をしたり、有意義に使っています。

- ・一週間の勤務日、休日について教えてください。

平日は仕事ですが、土日祝日は原則お休みです。夏休みもありました。

- ・今のお仕事はどのような内容ですか？

老健局老人保健課という所で介護保険に関する仕事をしています。

- ・取得した修士号や研究した内容はどのように活かしていますか？もし活かしていないとしたらどのような仕事であれば自分の経験が活かせると思いますか？

修士在学中に読んだ論文の内容、授業で学んだ統計の知識、スライドや報告書を作ることや報告書の中身を読んで解釈し、それをどのように見せるのかと言った手法を考えることなど、非常に多くの事を今の仕事で多く活かしていると思います。

- ・現在の自分は修士課程入学前あるいは修了後に描いていたキャリアと一致していますか？相違があるとしたらどのような点が相違していますか？

修士を卒業したら何をしようかという事は、入学してから考えようと思っていました。卒業後は、入学する前に働いていた病院に戻って働くことも考えていました。今の仕事は修士に入学し、講義を受けて初めて知った道です。ですので入学前には想像ができなかったですね。

●未来の事について教えてください。

・これからの目標は何ですか？仕事に関するもの、プライベートに関するもの、どちらも教えてください。

これからの10年は今の仕事を続けたいと思っています。看護師の数を現在よりも増やし続けることには限界があると思っていますので、今の看護師の人数で質の高い医療・看護を提供する仕組み作りをしたいと考えています。

・日本の看護系大学院課程について、良い点や改善すべき点など、主観的にでも客観的にでも、どんな事でも良いので意見を聞かせてください。

修士や博士をもった看護師が、現場でどの様な働きが出来るのか、まだ十分に示しきれていないように思います。現場へ出て修士・博士を持つ看護師だからこそ出せる成果をもっと示していくことが重要だと考えています。それが出来てくることでおのずと周囲も変わってくるのではないかと思います。病院にとっては例えば研究を読む力がある修士を持った看護師がいるという事は非常に意義があるかもしれません。今は特に在宅分野の重要性が謳われるようになっていきますので、在宅分野の中で修士号を取得した看護師が医療・介護連携のコーディネーターとして活躍するなどの成功例が示せるようになってくると良いなと思っています。

インタビュー担当者：保科ゆい子

修士課程を卒業して、大学の研究員として働く

I さん

～ご略歴～

A 大学生物工学科卒業

B 大学理学研究科卒業

C 社 MR 勤務

D 研究所 研究員勤務

E 大学 研究員勤務



●過去

- どのようにして、現在のポジションを得ましたか？（知人や周囲からの紹介等の有無）

卒業後、企業に就職をしましたが、多忙で自分の時間がとれない事やストレスが原因で辞めてしまいました。その後、修士時代にお世話になっていた教授から声をかけて頂き、現在研究員として仕事をしています。

- 大学院在学中にやりがいを感じたことは何ですか？

研究に没頭しているときです。結果が出たときは勿論ですが、他人に認められたときや発表の後などに達成感を味わうことが出来ました。

- 大学院在学中に苦勞したことは何ですか？

就職がなかなか決まらなかったため、研究に力を入れる時期が遅くなってしまったことです。

- これから就職を始める学生にアドバイス、やっておいた方が良いことがありましたら教えてください。

旅行や趣味を通して見識を広げることです。社会人になると忙しく時間が取れないので、就職活動に必死になるのではなく、色々な事を経験すれば良かったと思います。また、サークルやアルバイトなどを通じて人とのつながりを大切にしてください。

- 就職活動中の研究活動はどのくらい行っていましたか？

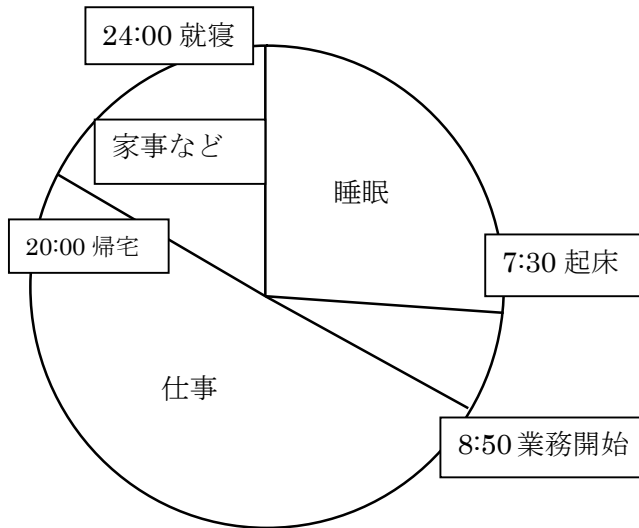
ほとんど行っていませんでした。一定の時間をなかなか取れないため、苦勞しました。

●現在

- 博士卒と修士卒で仕事内容やできる研究に違いはありますか？

博士を卒業することで、1人で実験を進められる力が身に付くと思います。私は修士卒ですが、いずれ進学も考えています。

- ・仕事をしている日のタイムスケジュールを教えてください。



学会前の忙しい時は帰宅が22時頃になることも。
自宅が近いので、お昼休みには帰宅して少し家事を行っています。

- ・一週間の勤務日、休日について教えてください。(土日休み or 不定休など)

基本は土日休みですが、実験の関係で出勤することもあります。

- ・休日一日の流れを教えてください。

買い物などをして過ごしています。実験を行うこともありますが、家でゆっくりしていることが多いです。

- ・今のお仕事はどのような内容ですか？

国立大学の研究室で勤務しています。

- ・仕事のどんなところに魅力を感じますか？

融通がある程度効くところです。企業にいた頃より好きな事をやっているという意識が高く、忙しい時期もありますが、やりがいを感じています。

- ・旦那様は家事を分担してくれますか？

お弁当は曜日で分担して作っています。帰宅時間が私の方が早い為、夜ご飯は私が作りますが、週末は外食が多いです。

●将来

- ・これからの目標は何ですか？(仕事の面&プライベートの面)

博士号の取得を考えています。

また、プライベートでは旅行が好きなので、また時間をみつけて行きたいです。

インタビュー担当者：八田愛理奈

基礎研究に携わるということ

～企業・研究所・大学を経て～

伊藤 亨子（いとう ゆきこ）さん

～ご略歴～

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科卒業

同大学 大学院 修了（修士）

製薬会社（体外診断薬） 研究開発部に2年間勤務

国立精神・神経センター 研究員として6年（任期3年を2回経験）

東京医科歯科大学 大学院（国立精神・神経センター） 修了（博士）

同大学 分子神経科学分野 特任助教

現在に至る



・修士卒業後に就職した製薬会社から国立精神・神経センターに転職した理由・きっかけを教えてください。

単純に、神経科学の基礎研究の分野に未練があったからです。

私の両親は、子供に博士号を取らせる義務は親にはなく、欲しければ自ら努力をなささい、という考えでしたので、最初の就職は、博士号を取るための資金を貯めるためのものでした。その頃の私は考えが安直すぎるところがあったので、厳しい状況でもやり続けたいかどうか、両親から問われたのだと思います。

しかし、企業での仕事も、慣れて結果が出始めるとやりがいを感じ始めます。社外からも成果を認められ始めていましたので、そのまま勤め続ける事も考えましたが、やはり最終的には、未練が強い方に傾きました。

・博士課程へ進学した目的を教えてください。

当時はすでに国立精神・神経センターで働いていたため、任期が終わった後のステップアップなどを考え、研究員としての生活を続けていくために博士号を取得しました。

・授業料や生活費はどうしていましたか。免除や奨学金などありましたか。

以前企業で働いていた時の貯金もありましたが、授業料や生活費は国立精神・神経センターで働いた分で賄っていたと思います。学費免除の申請をしましたが、収入があったため承認されませんでした。

・当時の生活について教えてください。

授業のあった時期は午前中に医科歯科大学へ行き戻ってから仕事をしていました。セミナーなどがあった日は日中仕事をしてから夜は医科歯科大学へ、という感じでした。

仕事では成果を出すことが1番に求められていたので、成果を出せるように仕事の計画を立てれば、特にコアタイムについてうるさく言われるところではなかったのですが、授業などで半日外へ出ていても平

気でした。

・社会人大学院生としての生活の中で、不便、大変だと思ったことや不満は何かありましたか。

自宅が精神センターの近くでしたが、センターと大学が遠かったため通うのが大変で、時間配分を考えるのがきつかったです。

また、常に大学にいるわけではなかったため、先輩からの情報もほとんど入ってこなかったため、論文審査の準備などに苦勞をしました。先生方にもとても苦勞をかけてしまったと思います。

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？

修士課程修了後、製薬会社に就職し研究開発部で働いていました。そこでは薬の原材料の代替となるものの探索や、海外から輸入したものを日本の薬事法と照らし合わせるなどの仕事をしていました。2年間の勤務の後、基礎研究に携わるため国立精神・神経センターに転職しました。はじめはアルバイトのつもりで転職活動をしていましたが、研究員として雇ってもらえることになりました。おそらく、当時面接にあたってくれた方（後の上司）が元々民間企業で働いていた人で、私が2年間企業で働いていたことも有利に動いたのではないかなと思います。

また、博士号取得の際も、研究部部長が東京医科歯科大学の客員教授だったこともあり、仕事内容と論文の内容が同じだったので、医科歯科大学の大学院生として国立精神・神経センターで働きながら博士号を取得することができました。働きながら博士を取得することに理解のある職場だったことも助けになりましたし、環境にも恵まれていました。

そして、医科歯科の大学院時代にお世話になった先生のお誘いを受け、センターでの任期終了に合わせて現在の職場（分子神経科学分野）に移り、研究に携わっています。

・どのようにして、就職情報を得ましたか？

修士修了時：リクナビ（ESを出したのは30社ほど）

転職時（国立精神・神経センター）：日経バイオテクの人財サイト（研究員募集のもの）

（東京医科歯科大学）：教授のお誘い

・情報を得た時期はいつぐらいですか？

修士修了時は周りと同じように普通に就職活動を行いました。

以降、転職の際は任期が終わったらすぐ移れるようにお話はいただけていました。

・これから就職を始める学生にアドバイス、やっておいた方が良いことがありましたら教えてください。

研究所は車でないと行けないようなところもあるので、そういった意味では研究職を目指すなら普通免許を取っておいた方が良いでしょう。

また、私自身どこにいても言われてきたのが、自分が何をしたいかを考えて決断していくのが一番大事だということです。

今まで自分が歩んできたルートを見直し、自分の目標に向けて、今の自分についてもっともらしく言えたり書けたりできるようにするといいと思います。

研究者を目指すのであれば、自分の専門を設定することも大事ですし、目標を決めるのは難しいかも

しれないけれど、10年後のビジョンが持てるようなものにすると思います。
自分について考えること、何がしくて選ぶのかということをお大事にしてほしいと思います。

・仕事の内容を教えてください。

神経系の細胞外グルタミン酸濃度調整に関わるグルタミン酸トランスポーターについて、マウスを用いて研究しています。グルタミン酸は、神経系においては興奮性神経伝達物質ですが、細胞外に放出される量は多過ぎても少な過ぎても害になります。その適正量は種々のグルタミン酸トランスポーターによって維持されており、その一つのGLT1タンパクが、現在の研究対象です。主に細胞外のグルタミン酸をアストロサイト内に取り込み、神経が過剰に興奮することを防いでいます。一方で、神経の過剰興奮は、神経変性疾患の他、最近では統合失調症や自閉症などの精神疾患の病態メカニズムの一つとして考えられていて、私は、それら疾患とGLT1との関連性をマウスモデルにて検討しています。

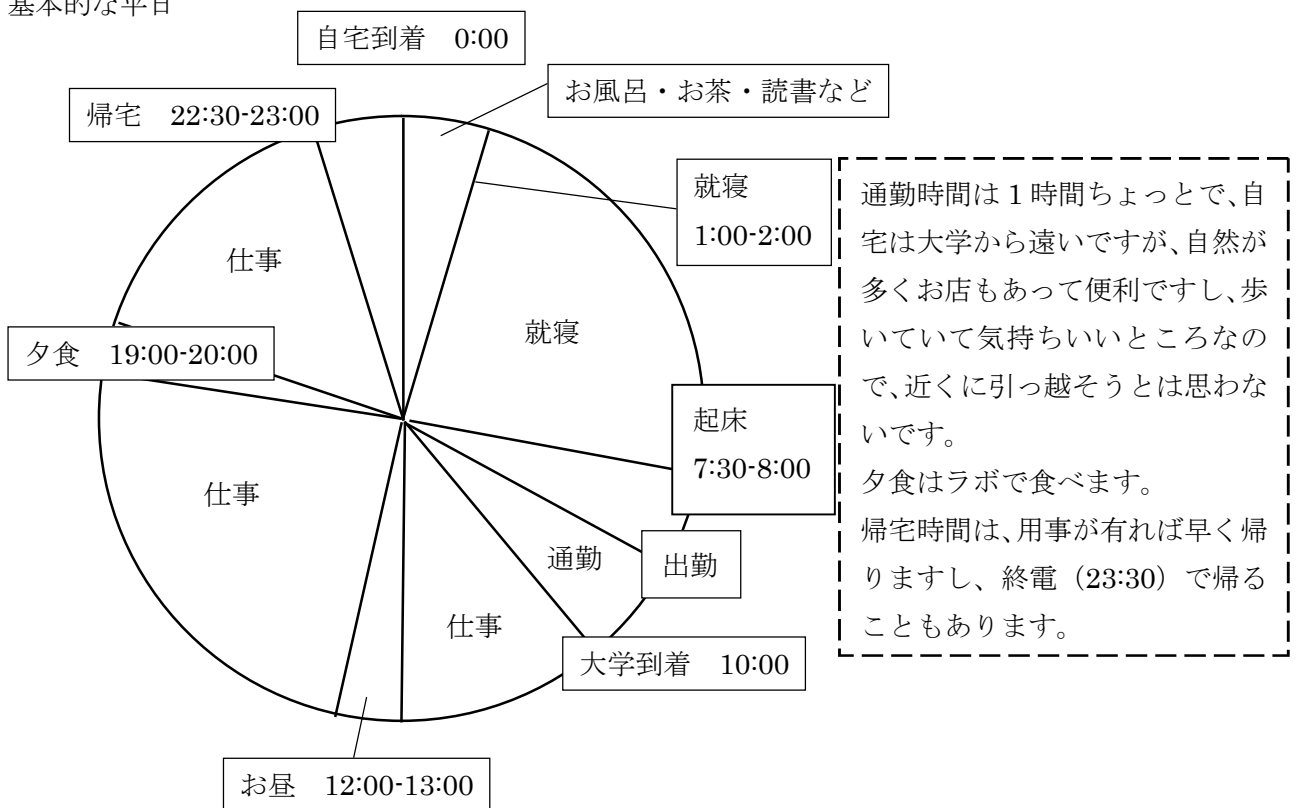
・企業での研究と基礎研究との違いは何ですか。

企業で求められるのは利益追求なので、それに伴って業務も配分されるため、各自の割り当てなどがしっかりしています。協調性が問われ、やりたいことができるかは分かりません。博士より修士卒の方が有利です。

基礎研究は興味の追及は出来ますが、そのことが公の利益になるということをいかにアピールできるかということが大事になります。成功できるのは一握りですので、覚悟を持って進むべきだと思います。

・タイムスケジュールを教えてください。

基本的な平日



休日

1人でいるのが好きなので、買い物をしたり本を読んだりして過ごすことが多いです。

・一週間の間、毎日の勤務と休日の時間帯を教えてください。

論文の完成に合わせた働き方なので、基本的にカレンダー通りの休みですが、出勤することも多々あります。

そういうときの時間は午後だけだったり数時間だったりバラバラです。

土日のどちらかは丸々休むよう心掛けてはいますね。

・これからの目標は何ですか？

近い目標としては、出したい論文が2本あるので、それを出すことです。

また、来年あたりに就活をして、基礎研究が行える次の職場を決めたいと思っています。そのため、今まで磨いてきた技術的なものから発展させ、自分のテーマが絞れるよう、芯を定めたいと思っています。

あとは、最近体力が落ちてきたような気がするので、体力作りの為に登山を始めたいなと思っています。

インタビュー担当者：小野恵子

工学分野のアプローチから新しい解決策を — 企業の医療研究・開発で活躍

大島 志織（おおしま しおり）さん

～ご略歴～

2007年 筑波大学卒業

2009年 筑波大学大学院 博士前期課程修了

2010年 筑波大学大学院 博士後期課程修了(博士(工学))

2010年 日本学術振興会特別研究員(PD)

2011年 ソニー株式会社 入社

現在、メディカル事業ユニット・研究開発部門勤務



●過去のことについて

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？

修士の時に就職活動をした際に、ソニー株式会社でメディカルビジネスを始めるということを知り興味を持ちました。ソニーのフレックスキャリア制度（※内定取得後、必要性が認められれば最大2年間入社を遅らせて、留学や研究などを続けられる制度）を適用いただき、博士課程を修了してから、現在のポジションである研究員として働いています。

*フレックスキャリア制度：現在はこの制度はありません。現在は、最終学歴を卒業後3年以内であれば就業経験の有無にかかわらず新卒として入社することができます。

・どのようにして現在のお仕事の就職情報を得ましたか？情報を得たときには知人や周囲の方からのご紹介があったかどうかもお聞かせください。

修士の時に大学にある就職課に行き、大手の就職セミナーに参加しました。先輩の話の聞いたりもしました。

・就職情報を得たのはいつごろでしたか？

修士1年生の終わりで12月くらいからです。もともと博士に行くつもりだったのですが、楽しそうな場所があればと思って就職活動を始めました。

・これから就職活動を始める学生にアドバイスや、資格の取得といった具体的に実践しておいた方がよいことがありましたら教えてください。

就職した後は、やりたいことを選びなおすのが難しいです。ちゃんとやりたいことを考える時間をとることが必要だと思います。私の場合はやりたいことが医療の研究で、それをどこでできるかを考えたことがよかったと思います。

就職活動はみんながやっていることに流されてしまうのではなく、自分がどういうことをやっていきたいのか、それができる場所はどこかよく考えることが大切です。

・大学院在学中にやりがいを感じたことは何ですか？

研究です。医療工学で人工心臓に関する研究をしていました。修士のときにアメリカ、博士のときにウィーンに留学しました。海外の病院の現場で、工学を医療に適用する場面を見ることができました。この研究でこういうことができるんだ、日本でもこういう研究を活かせるはずだ!と思いました。

・博士/修士課程在学中に苦労したことはありますか？

いろいろあります。

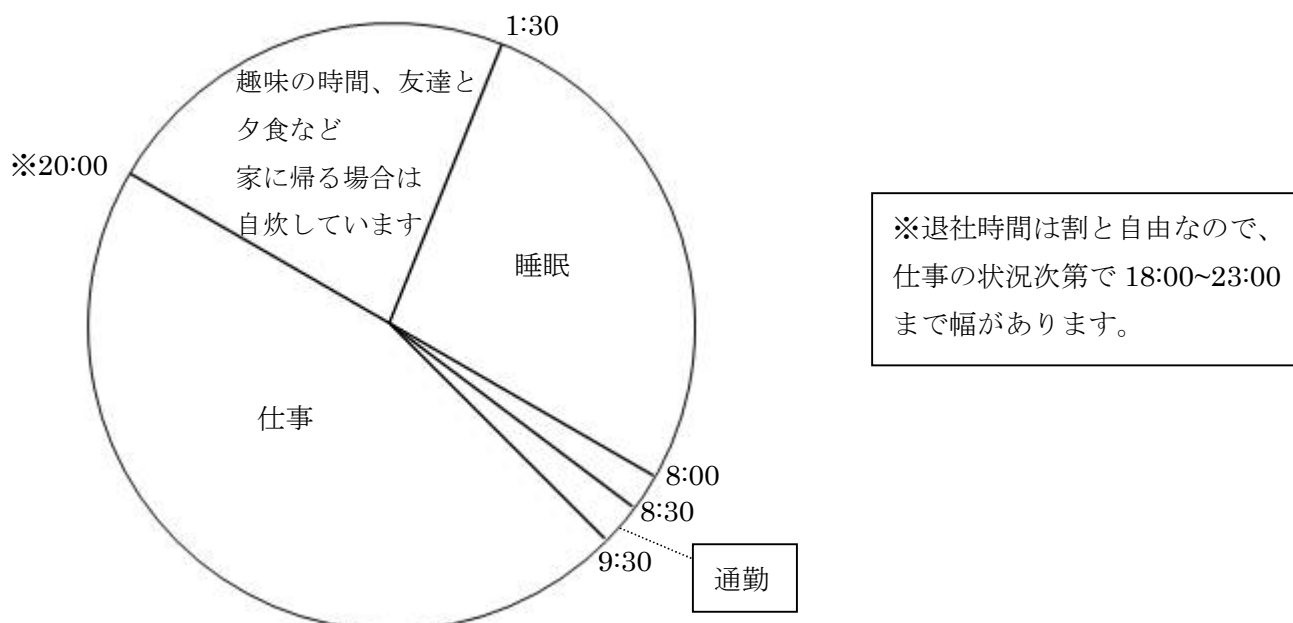
・それはどんなことですか？

結果がうまくでないときにどういうアプローチをしたらいいか、ということに苦労しました。

同じチームメンバーで目標に向かって歩いていくことでは、面白い面もありますが、自分とみんなの研究結果に結び付けていくのが難しかったです。

●現在の事について

・仕事をしている日のタイムスケジュールを教えてください。



・休日のタイムスケジュールを教えてください。

平日と同じくらいの時間には起きて趣味のダンス練習に行ったり、同期と旅行に行ったりしています。

・一週間の勤務日、休日について教えてください。

土日が休みです。

・休暇制度について教えてください。どれくらい休日を利用されていますか？

有給、夏季年末年始の休暇制度があります。夏季の2日くらいの休暇やゴールデンウィークに有給を併せて、まとめて長く休暇をとる人が多いです。私は8割くらい使っています。

・企業で働く方では博士卒と修士卒で仕事内容やできる研究に違いはありますか？

博士卒の人は共同研究で専門的な仕事やリーダーシップを求められる部分がありますが、明確な違いはありません。博士で身に着けた専門性や研究アプローチは重視されます。

・現在の研究内容について教えてください。

今はライブセルイメージングの仕事をしています。ライブセルイメージングとは細胞を生きのままイメージングする技術です。製薬の新薬開発における細胞スクリーニングの現場などで、細胞のイメージングへの3Dや画像処理技術の応用を目指しています。

大学で行うような研究から、研究内容を製品にする開発・試作(知的財産、品質管理、薬事)まで幅広く関わっています。

・仕事の中に研究の占める割合はどのくらいですか。

現在は研究寄りで、8割は研究、2割は開発や製品にするプロセスです。

・大学院研究室と企業ではどんなところが違いますか？

研究を行う上で、大学の自由度は高いです。企業はビジネスとして目指すもの、方向性が決まっていることが多いです。一方、エンドユーザーに近い所でものを作ることができるという利点があります。

研究的な面白さですと、大学は学部ベースでの研究が主流となりますが、企業は世代や分野が広く研究を行えるのがよいです。

企業は研究を行っていくうえで安定しています。大学では若手の研究員であっても研究費をとることが求められ、次のポジション探しにも時間がとられますが(その分自分の目指すことがはっきりできるメリットはあります)、企業ではそういった不安は少なく研究に時間を割けます。

・仕事のどんなところに魅力を感じますか？

工学分野という自分の専門性を活かして、医療への違うアプローチで問題解決していけるところ、自分が主体となって進めていけるところです。

●未来の事について

・これからの目標は何ですか？仕事に関するもの、プライベートに関するもの、どちらも教えてください。

仕事に関しては、ソニーは医療領域を始めたばかりなので、日本の医療に新しい解決策を出せる技術を提供していきたいです。女性の多くの方が仕事をやっていくか、家庭をもってやっていくか考えることがあると思いますが、いずれ家庭をもってプライベートも楽しくやっていくのが目標です。

・これからやってみたいこと、チャレンジしてみたいことがありますか？

もっといろんな国に行ってみたいです。留学をしていたこともあり、発展途上国の医療に触れてみたいと思っています。旅行が好きなので、いろんなところを見に行きたいです。大学の時は忙しかったのですが(土日がなかった)、企業は土日があるので、落ち着いて生活を楽めます。やはり色々なものを見てみたい、と思っています。

インタビュー担当者：鈴木陽子

社会人大学院での研究・技術を新しいライフスタイルビジネスへ

松山 科子（まつやま しなこ）さん

～ご略歴～

理学部数学科卒業

NEC 情報システムズ就職 10年勤務後

現会社（ソニー株式会社）に転職

筑波大学大学院 修士課程ビジネス科学研究科

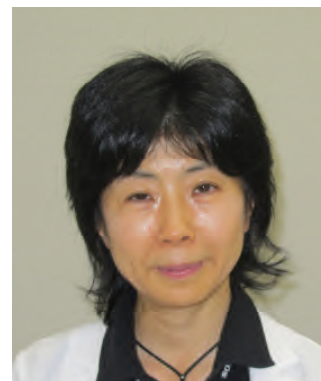
東京工業大学大学院 博士課程総合理工学研究科

知能システム科学専攻（博士（工学））

ソニー株式会社 R&D プラットフォーム

ビジネスデザイン&イノベーションラボラトリ

シニアリサーチャーとして勤務



●過去のことについて

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？

大学卒業後電機メーカーに就職し、ビジネス向けのシステムの開発に携わりました。その後ソニーへ転職しました。ソニーでは Edy システム(※)の立ち上げ、認証システムの研究開発を行った後、IC カードやウェアラブルセンサなどから得たシステムに蓄積されたビッグデータの研究開発を行ってきました。データを解析し傾向をわかりやすく提示したり、役に立つ知見を抽出するサービスとして、例えば、健康医療系への応用を行っています。現在はテレビ、パソコン、デジカメなどの機器単体でのビジネスが難しくなっているため、サービスも含めた新しい事業の創出のためのプロジェクトリーダーとして働いています。

※Edy…プリペイドカード型の電子マネーシステム。コンビニエンスストアなどで Edy カードを購入して支払った金額分だけ、Edy システムを利用できる店舗や Web サイト上で買い物ができる。(引用：コトバンク)

ソニーに係長代理で入社し、係長を経て課長に昇進したところで、ビジネスを学ぶため、筑波大学大学院修士課程ビジネス科学研究科へ社会人大学院生として入学しました。2年間自費で夜間と土日に大学院へ通い、技術をビジネスにつなげることを学びました。大学院の先生が東京工業大学に移られ、自分がやりたいことが東京工業大学で行われていることに近かったため、その先生について東京工業大学大学院博士課程で3年間社会人大学院生として学び、博士号を取得しました。

・どのようにして現在のお仕事の就職情報を得ましたか？情報を得た時には知人や周囲の方からのご紹介があったかどうかもお聞かせください。

・就職情報を得たのはいつごろでしたか？

大卒時：大学研究室への求人案内

転職時：リクルート(雑誌)

就職情報：大卒時は夏休み後

私が就職した時期と現在は違うので、これらの情報はあまり重要ではないと思います。時代によって変わるもので、国の就職政策や企業や就職会期設定などによって変わってきます。研究室の研究状況や理学部、工学部など学部でも変わってきます。

・これから就職活動を始める学生にアドバイスや、資格の取得といった具体的に実践しておいた方がよいことがありましたら教えてください。

資格も重要ですが、自分で考える力、人に分かりやすく伝える力、コミュニケーション力が必要です。特にコミュニケーション力は大切で、なぜなら働く上では、自分一人ですべて行う、ということはまずできないからです。色々な方の協力を得て進めていく必要があります。また、自分で考える力、人にわかりやすく伝える力も、例えば現在の研究は専門性が高く、街中で説明を求められても、困ってしまう人が多いと思いますが、現在の研究に関して、研究の目的、意義、位置づけ、ゴール、課題、解決、優位点、実現できていること、残された課題から論理立てて話せること、自分なりの工夫点など、専門外の人にこの研究は何を目指しているかを伝えられることが重要です。さらに学生時代よりも、就職してからのほうが時間長く身に付けることが多いため、今何ができるかよりも、これから身につけられるか、成長できるかが重要です。

・大学院在学中にやりがいを感じたことは何ですか？

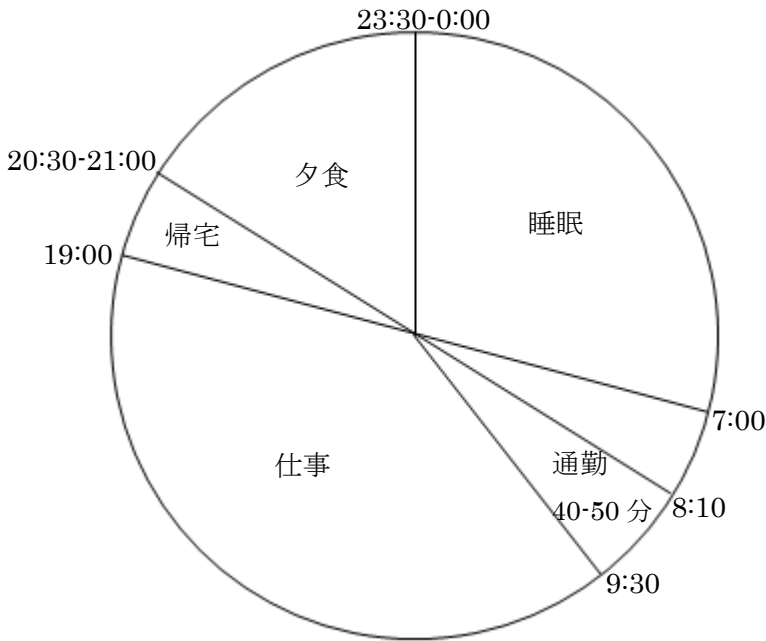
大学院では一つの自分の決めたテーマに長い期間、時間をかけて自分の研究に専念できたことが良かったです。自分の決めたテーマで、目的、意義、位置づけをはっきりさせ、ゴールに向けて課題と解決方法を探していきました。研究が楽しいから研究をしたい、という人もいますが、何のために研究を行うか、が重要です。研究で課題を解決し、人々の困っていることを解消し、生活が変わる技術を研究していきたいと思っていました。会社のメーカーとしてできることを考えられた期間でもありました。社会人大学院生として、色々な業種の方が学んでいましたが、そういう人と人脈が築けたことも良かったです。

・博士/修士課程在学中に苦労したことはありますか？

博士課程で論文をジャーナルに通すことでした。枚数が限られていること、制限された文字数の中で、文章だけで第三者に適切に伝えることが難しかったです。

●現在の事について

・仕事をしている日のタイムスケジュールを教えてください。



・休日のタイムスケジュールを教えてください。

起床：9:00

その後：掃除、洗濯

土曜日…習い事(語学)・ジム(たまに)・大学ゼミ(たまに)

日曜日…友人とランチ、買い物など

・休暇制度について教えてください。どれくらい休日を利用されていますか？

年間有給：約 20 日、繰り越し(前年など)：約 20 日

利用：1 週間~10 日(GW、夏休み、年末など)

・企業で働く方では博士卒と修士卒で仕事内容やできる研究に違いはありますか？

仕事内容やできる研究には差はありません。それぞれの方の能力やそれまでの成果で仕事上の役割分担がなされていきます。

・仕事の中に研究の占める割合はどのくらいですか。

現在は 10%未満、フェーズによります。会社の状況や開発の段階でも差があります。

最初は研究を行い、開発を進めていく段階でお客さんになりそうな人へのインタビューを進めていきます。そういう段階を研究に含めれば 10~50%になるかもしれません。

・企業で研究を行うメリットとデメリットを教えてください。

メリット：実際に研究内容が世の中に出る可能性が、大学よりも高いです。お客さんに使ってもらえます。

デメリット：会社の方針・体制や経営状態などに大きく左右されます。研究が短いスパンで終了することもあります。一度終了してしまうと、再スタートするのに時間やコストがかかります。

・大学院研究室と企業ではどんなところが違いますか？

企業は収益を得ることが第一の目的で、ビジネスにならない研究はしません(お客さんが誰か？お客さんのニーズは何かをきちんと考えたうえでの研究)。研究も大学に比べると短期間です。短期間で開発に持っていけるような研究がメインです。

・仕事のどんなところに魅力を感じますか？

新しい技術でお客さんに感動してもらえる、喜んでもらえる、助けになれることができる点です。難しいところでもあるのは、開発したものを技術視点で見ると買ってもらえる！と思うのですが、お客さんにとって魅力かどうかわからないところです。

●未来の事について

・これからの目標は何ですか？仕事に関するもの、プライベートに関するもの、どちらも教えてください。

提案サービスで新しい生活スタイルを生み出すことが目標です。例えば携帯からスマホの流れでは、最初は一部の人が携帯を業務目的で電話のみで使い始めましたが、業務以外でも使うようになり、電話以外の用途へも広がり、現在ではスマホはみんなが持ち用途も様々で、人々の生活スタイルを変えています。そういう新しいもの（製品・サービス）を提案したいです。

・これからやってみたいこと、チャレンジしてみたいことがありますか？

まずは現会社で新規事業をきちんと立ち上げ、1会社にとらわれないもっと大きい視点の仕事にチャレンジしてみたいと思います。情報系の技術を元に、人々へ楽しみを提供する製品・サービスを作りたいと思います。

インタビュー担当者：鈴木陽子

博士課程を卒業して

～研究者として日本で働く方の場合～

Hさん

～ご略歴～

中国の大学の医学部 卒業

東京医科歯科大学 人体病理学 博士課程卒業

東京女子医科大学 研究員

日本工学院 非常勤講師

日本工学院 常勤講師

東京工科大学 常勤講師



●過去

・言葉の壁をどう超えましたか？

東京医科歯科大学に入学する前に、一年間ぐらい日本語学校で勉強したことがあります。普段も、映画やニュースなどを見て、アクセントと表現の仕方を真似しました。

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？（知人や周囲からの紹介等の有無）

卒業した直後、最初に就職したのは、東京女子医科大学です。夜の帰りが遅くて、当時小学生の娘の面倒を見られなかったため、他の職場に移りました。新しい就職先の日本工学院は博士課程の際の知人からご紹介を頂きました。日本工学院では、最初に非常勤講師の仕事をしてしながら、育児生活もすることができました。娘が小学校4年生になった頃、日本工学院の常勤になりました。その後、今から四年前、日本工学院と同じ法人内の東京工科大学の常勤講師になることができ、現在は講師として研究の仕事をしています。

・どのようにして、就職情報を得ましたか？（知人や周囲からの紹介等の有無）また、情報を得た時期はいつぐらいですか？or 就職活動はいつからでしたか？

博士課程卒業直後に勤めた東京女子医科大学の仕事は、研究者求人サイトを見て、自分で応募しました。

その時、博士課程の学位論文のことで忙しかったため、就職活動は特に時間をかけて探すことはできませんでした。卒業の直前に、インターネットの研究者求人情報を見て、東京女子医科大学へ応募しました。

その後の仕事は、知人の紹介で、日本工学院大学へ移りました。

・これから就職を始める学生にアドバイス、やっておいた方が良かったことがありましたら教えてください。（資格の取得等）

臨床の仕事をした場合は、臨床の資格を事前に取得しておいた方がいいです。

研究の仕事を経験したい場合は、絶対に修士号か博士号の学位を取ってください。

●現在

- ・研究の楽しいことと困ったことと、やりがいを感じたことを教えてください。

研究が好きですから楽しいです。

研究で一番困ったことは、研究の時間が足りないことです。毎日講義の後の時間も使って、研究をしています。そのせいで帰宅が遅くなります。

やりがいを感じたことはやはり研究成果が出て、論文がアクセプトされたときには楽しく、またやりがいを一層感じます。

- ・医師免許、臨床の知識・経験は活かせていますか？

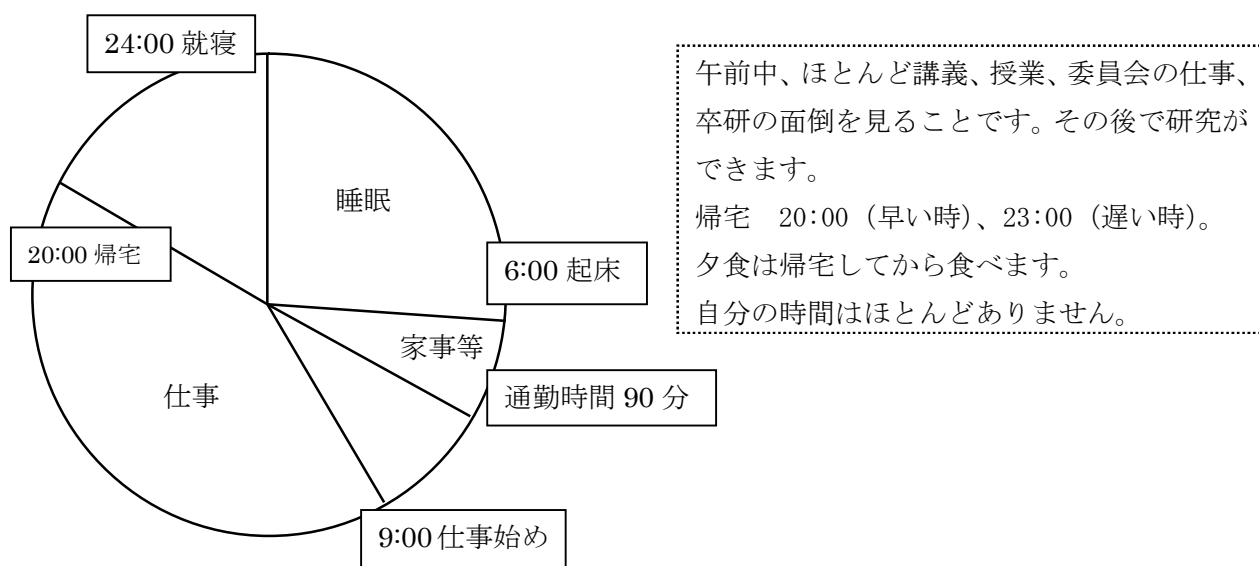
今の研究は臨床と密接した研究ですから、臨床の知識も研究に使えています。

- ・研究の内容を大まかに教えてください。

今の研究テーマは、「フローサイトメータを用いた大腸癌の研究」です。

フローサイトメータを用いて、大腸癌の DNA 量を測定することによって、病理診断の診断支援ができる装置の研究を工学系の先生達と共同で行っています。

- ・タイムスケジュールを教えてください。



- ・休日一日の流れを教えてください。

週末に家事をします。たまに娘とショッピングにも行きます。

- ・今のモチベーションを保つため、どうやってリフレッシュしていますか？

リフレッシュ法は、毎日ちよつとずつ専門と関係がない読書をする事です。

・毎日お忙しいですが、夕飯はどちらで食べますか？誰が作りますか？旦那様は家事を分担してくれますか？

夕飯は帰宅してから食べます。帰宅してから私あるいは旦那が作りますが、朝出勤前に準備をしておく時もあります。旦那は家事を分担してくれます。

●将来

・これからの目標は何ですか？（仕事の面&プライベートの面）

目標は論文の数を増やすことと健康な体を保つことです。

・将来の道をどのようにデザインしていますか？（これからやってみたいこと、チャレンジしてみたいことはありますか？）

家計を心配する必要がなくなった後、或いは定年後に、ゆったりとした人生を送りたいです。自分の時間があって、ゆっくりと読書できるような将来に憧れています。

・将来臨床と基礎研究のどちらを生涯のお仕事にしたいですか？

今までの基礎研究の仕事は自分も興味があり、かつやりがいのある仕事ですので、今までのように、臨床と密接な関連のある基礎研究の仕事を続けたいです。

インタビュー担当者：李娜

博士課程を卒業して

～企業へ就職する方の場合～

李 明順（り めいじゅん）さん

～ご略歴～

1993年：医学部卒業（中国）

2003年：東京医科歯科大学神経内科にて博士課程修了

2003年-2005年：東京医科歯科大学神経内科にてポスドク

2005年：英国系製薬会社日本法人へ入社、

臨床開発業務に従事

2006年-2011年：米国系製薬会社日本法人へ転職、

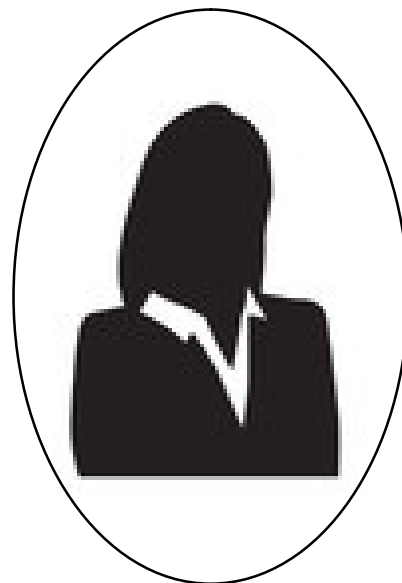
同じく臨床開発業務に従事

2011年-現在：米国系製薬会社日本法人へ転職、

同じく臨床開発業務に従事

2013年1月より米国本社所属になり、

現在 Asian pacific の臨床試験担当。



●過去

・日本へ来て何年ですか？何年目に就職を決めましたか？

1996年に来日し、日本語学校、医学博士課程を経て、2005年に英国系製薬会社へ就職しました。

・言葉の壁をどう超えましたか？

日々の生活や仕事に必要な性があったため、使っているうちにマスターすることができました。

・どのようにして、現在のポジションを得ましたか？（知人や周囲からの紹介等の有無）

人材紹介会社を積極的に活用しました。もちろん、知人や周囲からアドバイスをもらったり、紹介してくれたりもしました。

・どのようにして、就職情報を得ましたか？（知人や周囲からの紹介等の有無）

自分がやりたいこと、自分の強みを分析した上で、インターネット情報をフルに活用しました。もちろん、最初は企業において職種の意味も知らず、自分が何をできるか何をしたいかも分らなかったのですが、たくさん応募して、たくさん面接を受けて、たくさんの人に話を聞くことにより、イメージがつき、自分がやりたいことに近づけることができました。

・情報を得た時期はいつぐらいですか？or 就職活動はいつからでしたか？

ポスドクをやりながら、いろんな情報収集を行い、半年以上たってやっと面接の機会を得ました。日本人の方は卒業の一年前から就職活動していましたが、自分の場合は帰国する願望が強かったため、な

かなか真剣に活動できず、中途採用の道を選びました。博士まで出ると、理想が高く現実とかなりかけ離れていて、たくさん挫折を感じました。正直就職までの道のりはかなりきつかったです。私はとてもラッキーで、最初から英国の大手製薬会社に正社員として採用してもらいました。やっと得られた仕事も新卒の大学生と同じ扱いで、当時の能力も新卒と同じく何も知らなかったのも、しょうがないと納得して、やるしかなかったです。

・これから就職を始める学生にアドバイス、やっておいた方が良いことがありましたら教えてください。
(資格の取得等)

自分の強みをよく分析して、それを生かした仕事を探した方が一番よいと思います。医科歯科で修士、特に博士まで出ると、それ以上の資格は特に無理してとらなくても良いかと思います。もちろん無理がない範囲であれば、いろんな資格があることには越したことはありません。仕事の内容にもよりますが、留学生にとっては、日本語がいくら上手でも native の日本人には越えられないので、英語をマスターしたほうが得策と思います。

私は中学や大学で英語を習ったことがないので、医科歯科で研究したときは、論文を読むのが苦痛でしょうがなく、研究職をあきらめて、企業への就職を決めました。しかし、入社したのは外資系のため、英語ができないとキャリアアップももちろん、仕事をちゃんこなすこともできませんでした。しかし、生きていくために泣きながら勉強して、今は上司とも同僚とも英語で Communication し、仕事の95%を英語で行っています。

後輩へのアドバイスとしては、

- ・自分を信じてやればできます。
- ・自分の強みを生かします。
- ・チャンスが訪ねて来たときは、チャレンジして掴むことです。そのためには、普段の準備が大事です。掴んだチャンスには応えるように努力すれば、スキルもつき、次のチャンスも訪れてきます。

●現在

・日本でのお仕事は楽しいですか？ どのところが楽しいですか？

現在の仕事は自分の強みをフルに使える仕事なのでとても楽しいです。新しい抗がん剤の開発に携わっており、病気に苦しんでいる患者さんへ生きる希望の薬を届けるという夢のある仕事のため、やりがいがあります。

・現在の仕事は、学生時代の専門知識を活用できますか？

はい。医学知識、臨床や研究の経験がとても役立っています。このような経験を持っている人は、企業では非常に少ないため、いわゆる人材として扱ってくれます。

・お仕事の内容を教えてください。

新しい抗がん剤の臨床試験の企画、臨床試験中の被験者（患者）の安全性の担保や、試験結果の分析や試験が成功したら、規制当局へ臨床で広く使えるように承認申請をすることです。

・大学院研究室と企業ではどんなところが違いますか？

企業はビジネスで、利益がないと成り立たないため、いろんなルールが多いです。企業はビジネスのため投資も大きいので、大学の研究室できないことやスケールの大きいことができます。一方で、大学での研究は未知のことの探索のため、科学の最先端を走っている、夢のある仕事です。どちらかというとも自由な発想が重要だと思います。できることは小さいかもしれませんが、それが種として今後大きな木になることもあります。

・企業で働くことのメリットとデメリットは？

メリット：

- ・一般社会の一員として、日本の社会が良くわかります。
- ・安定した収入が得られ、能力主義の会社（特に外資系）が多いので、働く分収入が上がります。
- ・企業には、キャリア養成や、子育て、介護などのための福利厚生制度が多いため、それらを活用して、仕事と家庭の両立ができます。

デメリット：

- ・ビジネスのため、好きではないこともやらないといけません。
- ・規定が多く、チームワークが大事です。従って、自由を求めたい、Communication が苦手な人はあまり向かないかもしれません。

・仕事のどんなところに魅力を感じますか？

患者さんへ希望を届けることです。

●一日のタイムスケジュールを教えてください。

・休日一日の流れを教えてください。

土曜日：朝は近所のジョギングもしくはスポーツジムで運動、午後は英語サークル、夜は友人と食事をします。

日曜日：日帰り旅行やジムで運動、友人と食事など、リラックスします。家事は朝晩の隙間でやります。連休などを使って国内、海外旅行に行きます。

・一週間の間、毎日の勤務と休日の時間帯を教えてください。



フレックスタイムなので、10時前に出勤、18 - 19時に退社します。米国本社との電話会議は週3回ぐらい入るため、夜10時から1 - 2時間電話会議に出ます。

●将来

・これからの目標は何ですか？

今の仕事をこなして、今後は臨床試験の Global の責任者として働きたいです。

・将来の道をどのようにデザインしていますか？（これからやってみたいこと、チャレンジしてみたいことがありますか？）

遠い目標ではなく、2-3年間で実現できる目標を設定してそれに向かって頑張りたいです。上に述べたように、ある薬剤の Global の開発責任者になりたいので、語学、疾患の専門知識や臨床開発関連の知識を日々の業務の中で、積んでいきたいです。

インタビュー担当者：李娜

インタビューを終えて

～ 修士卒 の方へインタビューを担当して感じたこと～

- 研究を続けていきたいと思うのであれば、ステップアップのために博士へ進学する必要があると感じました。
- 企業で働くことを望むのなら、修士卒業で十分であると思いました。就職することを考えるのならば、博士まで進学することが逆にデメリットとなることもあるのだと実感しました。
- 博士を卒業して研究を続けていきたいと考えると、ポストにつくまでに時間がかかり、かなりの覚悟が必要だと感じました。
- 修士を卒業してその後何がしたいのかをきちんと考え、博士への進学するのか、就職するのかを自分なりに選びとっていくことが大事であると思いました。
- 専門性の高い職業では、博士号の取得が求められると感じました。

～ 博士卒 の方へインタビューを担当して感じたこと～

- 留学生は、博士の学位があることで日系企業への就職は難しくなることがわかりました。博士を卒業した人は研究を続ける人が多いことがわかりました。もし就職するならば、日系企業にこだわらず、英語を学んで外資系の企業に就職するのがおすすめたと言われ、納得しました。しかし、企業に就職するのではなく、研究を続けていこうと思うのであれば、博士に進学した方がよいと感じました。
- 興味があることを研究するためには、博士へ進学しないと難しいのだと感じました。一回就職をしてから、博士をとる人もいることがわかりました。
- 自分のやりたいことのために、目的をはっきりさせて博士の学位をとることが大事なのだと感じました。博士で得た技術や考え方が仕事への取り組みに大きく貢献していると感じました。

東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構

学生・女性支援センター 女性支援部



〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL:03-5803-4921 FAX:03-5803-0246

Email: info.ang@tmd.ac.jp

<http://www.tmd.ac.jp/ang/>